

**平塚市総合計画
市民ワークショップ
実施報告書**

平成27年3月

目 次

1	「平塚市総合計画市民ワークショップ」の概要	1
(1)	開催趣旨	1
(2)	市民応募	1
(3)	実施概要	1
(4)	市民ワークショップの全体プログラム	2
2	「第1回～第4回市民ワークショップ」について	3
(1)	第1回市民ワークショップ	3
(2)	第2回市民ワークショップ	23
(3)	第3回市民ワークショップ	43
(4)	第4回市民ワークショップ	59

参考資料

1. 平塚市総合計画市民ワークショップ募集案内

1 「平塚市総合計画市民ワークショップ」の概要

(1) 開催趣旨

「平塚市総合計画市民ワークショップ（以下、「市民ワークショップ」という。）」は、「（仮称）次期平塚市総合計画」を策定するにあたり、これまで市政に声を届ける機会の少なかった市民の方からも幅広く意見をいただき、市民の視点も踏まえたまちづくりを検討していく基礎資料を収集するために開催した。

(2) 市民応募

市民ワークショップについては、「平成26年度平塚市市民意識調査」にご協力いただいた市民の方（住民基本台帳から、3000名を無作為抽出）を対象として、参加者を募り、19名の市民の方から応募があった。

応募された市民の方については、性別は男性9名、女性10名、年代は30代1名、50代3名、60代6名、70代9名であった。

(3) 実施概要

第1回市民ワークショップでは、参加した市民の皆様方に共通の認識を持っていたくことや第2回目以降の市民ワークショップを円滑に進めていくことを目的とし、全国の地方自治体が直面している現状や今後の自治体運営における課題などについて基調講演を行った。

また、平塚市における現総合計画による取組み、将来の人口推計や歳出などについても情報提供を行った。

第2回市民ワークショップでは、第1回市民ワークショップでの基調講演や情報提供を踏まえて、機械的に分けたグループ（4班）において、「イキイキしたまちってどんなまち」、「平塚から無くしたくないもの」の2つのテーマについて、個人やグループワークを通して話し合いを行った。その後、各グループでの話し合いの結果について、順次発表を行い、参加者全体で意見を共有した。

第3回市民ワークショップでは、希望したテーマ（「子育て支援・高齢者福祉・市民活動」または「教育・文化」）に分かれ、そのテーマに関する施策を推進するための手段について、各自でランキング付けを行った。その後、各グループで話し合いを行い、グループ内のランキング付けを行った後、グループ内のランキング上位の手段（方策）について、実行可能な具体策を導き出すため、ロジックツリーを用いて話し合いを行った。

第4回市民ワークショップでは、第2回及び第3回市民ワークショップでの話し合い結果を踏まえて、将来、「子や孫へつないでいきたい平塚市の未来像」について、各自で言葉の表記や項目について整理を行った。その後、各グループで話し合いを行い、グループとしての意見を整理し、その結果について発表を行った。

さらに、グループ発表の内容を踏まえて、参加者全員で話し合いを行い、意見の整理や共有化を図り、全体としてのまとめを行った。

(4) 市民ワークショップの全体プログラム

開催日時	場 所	実施内容
第1回市民ワークショップ 平成27年1月17日(土) 13時～15時	平塚市役所 本館3階 303会議室 304会議室	1. 開会 2. 基調講演 題名：「低成長・成熟化時代の新しい 総合計画のあり方」 講師：慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任教授 長瀬 光市氏 3. 情報提供 (1) 平塚市の総合計画は？ (2) 将来の平塚市の人口予測は？ (3) 平塚市の税金の使われ方は？ (4) 平成26年度平塚市市民意識調査 結果概要【速報】 4. 事務連絡
第2回市民ワークショップ 平成27年1月24日(土) 13時～16時	平塚市役所 本館3階 303会議室 304会議室	1. ワークショップ ・「イキイキしたまち」のイメージ共有 ・「平塚から無くしたくないもの」につ いて、グループワークを実施 ・興味あるテーマ別グループで意見交換 2. 事務連絡
第3回市民ワークショップ 平成27年2月7日(土) 13時～16時	平塚市役所 本館3階 303会議室 304会議室	1. ワークショップ ・希望したテーマに関し、推進するた めの施策について、各グループでラン ク付けを実施。その後、ランク上位の 施策について、具体策のロジックツリ ーを作成しながら話し合いを実施 2. 事務連絡
第4回市民ワークショップ 平成27年2月21日(土) 13時～16時	平塚市役所 本館3階 303会議室 304会議室	1. ワークショップ ・これまでのワークショップを踏まえ、 将来、「子や孫へつないでいきたい平 塚市の未来像」について、各グルー プで話し合い、意見整理を実施 ・グループ発表後、参加者全員で話し 合いを実施し、意見の整理や共有化を 図り、全体としてのまとめを行った 2. 閉会

※第2回～第4回の市民ワークショップの企画及び運営については、RE Learning
代表の秦野玲子さんに依頼した。

2 「第1回～第4回市民ワークショップ」について

(1) 第1回市民ワークショップ

【実施概要】

■開催日時、場所

日時：平成27年1月17日（土） 13時～15時

場所：平塚市役所本館303、304会議室（3階）

■参加者

14名（男性6名、女性8名）

■当日プログラム

1. 開会

あいさつ：中村企画政策課長

2. 基調講演

題名：「低成長・成熟化時代の新しい総合計画のあり方」

ー私たちはどのような時代に暮らしているのかー

講師：慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科

特任教授 長瀬 光市氏

3. 情報提供

（1）平塚市の総合計画は？

（2）将来の平塚市の人口予測は？

（3）平塚市の税金の使われ方は？

（4）平成26年度平塚市市民意識調査結果概要【速報】

4. 事務連絡

■実施結果

1. 「基調講演」について

・基調講演の主な内容は、次のとおり。（配布資料：別紙1）

・人口増加、経済成長を前提とした都市のパラダイム

人口増加を前提とした高度経済成長システムの構築により、社会保障制度や完全雇用性、社会資本の量の拡大など、物的豊かさを追求することで衣食住が満たされ、一定の豊かさを享受してきた。

一方、「国民生活に関する満足度の世論調査（内閣府）」では、昭和47年を境に「心の豊かさ」に重きを置く考え方が「物の豊かさ」を上回り、平成24年度には64%となった。国民の満足度に対する考え方が変化してきた。

・低成長、成熟化時代の都市のパラダイム

全国的な人口減少時代の中で、2020年以降、全ての都市が人口減少局面を迎え、これに伴い、人口密度が低下するに従い、1人あたりの行政コストが増加する傾向にある。また、今後、社会資本の老朽化に伴い、維持管理、更新費の増大

が見込まれ、2060 年までに必要な更新費（約 190 兆円）のうち、約 30 兆円分（全体必要額の約 16%）の更新ができないと試算されている。

- 低成長、成熟化時代の新しい総合計画のあり方

こうした状況の中、地域の持続可能性と自治体の自立を可能にする総合計画を、どのように構築するかが課題となってくる。キーワードは、「自分ごと」から「みんなごと」、「世間ごと」の視点を持ち「地域課題を地域の住民で解決できるものは何か。」を考えることが必要となる。今後は、真の豊かさと幸せを実現するためには、市民力、地域力と行政力のさらなる連携が重要である。

2. 「情報提供」について

- 情報提供の主な内容は、次のとおり。（配布資料：別紙 2）

（1）「平塚市の総合計画は？」

- 「総合計画」とは、平塚市が持っている自然環境や歴史などの地域資源を生かしながら、財政状況なども踏まえ、将来、平塚市をどのようなまちにしていくのか、その大きな方向性をまとめた計画である。
- 市は、この計画に基づき、市民生活を支える施策に取り組んでおり、教育や福祉、環境分野などにおける、最近の取組事例について示している。

（2）「将来の平塚市の人口予測は？」

- 平塚市の将来人口も、今後は減少していくことが予測されている。
- グラフは、一般的な区分ではないが、平成 26 年に民間団体の発表から話題となった、女性（主に、こどもを産み、育てていく世代）に着目した。今後は男性も含めて、この世代の減少が予測されている。
- グラフの下段には、主な年代の今後のライフイベントの時期を示しており、現在 0 歳のお子さんは、平成 33 年に小学校入学、平成 48 年に大学を卒業し、就職すると思われるが、グラフと合わせて見ると、働く世代も減少することが予測されている。

（3）「平塚市の税金の使われ方は？」

- 講演の中では、性質別に歳出が分類されていたが、このグラフは少し違った視点で作成しており、平成 25 年度の一般会計の実績に基づいている。
- 一番割合が多いのは「福祉・文化」の分野で、支出全体の 4 割を占めており、そのほとんどが福祉分野に使われている。福祉に関する費用は、今後も増えていくことが予測されている。
- 次に多いのは「土木」の分野で、道路や橋、下水道などの整備に使われている。
- 三番目は「環境・保健」の分野で、新しいごみ処理施設（環境事業センター）を建設したことにより多くなっている。ごみ処理には費用がかかるため、ごみの出し方によってはさらに支出が多くなる。

（4）平成 26 年度平塚市市民意識調査結果概要【速報】

- 昨年の秋に協力していただいた市民意識調査結果を速報として説明した。
- 平塚市への居住意向について、「住み続ける」または「たぶん住み続ける」

と回答した方は約 83%であり、年代が高くなるにつれて、その割合は高くなった。理由としては、「自然環境が良い」が約6割。

一方、「移転する」または「たぶん移転する」と回答した方は 7.2%で、理由としては「仕事や学校へ通うのに都合がよくない」が最も多かった。

- 生活の満足度について、「満足している」または「まあ満足している」と回答した方は約 64%で、年代では 10 代が最も多く、30 代が最も低くなっている。

一方、「やや不満である」または「不満である」と回答した方は、30 代が最も多く、次いで 20 代、40 代となっており、この傾向は前回調査（平成 25 年度）と同様である。

■当日の様子



基調講演の様子



基調講演の様子

このページは白紙です

低成長・成熟化時代の新しい総合計画のあり方ー私たちはどのような時代に暮しているのかー

長瀬光市（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任教授）

基調講演次第

1. 人口増加・経済成長を前提とした都市のパラダイム

（1）拡大・成長時代とは

- ・経済成長をベースに、戦後から現在まで5期（高度経済成長期、安定経済期、バブル経済期、失われた20年期、人口減少期）に区分し、拡大成長時代とは何かを読み解く。

（2）経済成長（GDP）の推移

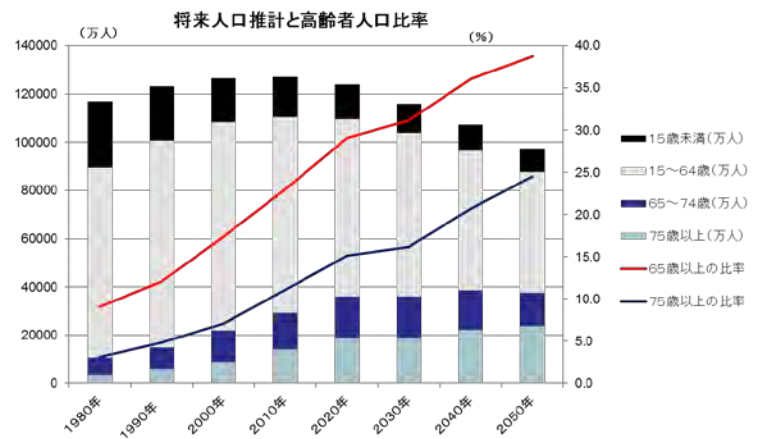
- ・高度経済成長期、安定経済期、バブル経済期、失われた20年期、人口減少期のGDPの変化を読み解く。

（3）拡大・成長時代の都市のパラダイム（考え方の枠組み）

- ・人口増加を前提にした高度経済成長システムの構築により、社会保障制度、高度な所得配分政策と完全雇用性、核家族を基本とした持ち家制度、社会資本の量の拡大など、物的豊かさを追求することで、衣・食・住が満たされ、一定の豊かさを享受してきた。
- ・「拡大、成長、上昇」期の発想に基づく経済社会システムの構築により、国民が目標に向かって急峻な坂道を昇り続けることで実現した。

（4）国民生活に対する満足度の変化

- ・「国民生活に関する満足度の世論調査」の推移をみると昭和47年を境に「心の豊かさ」の追及に重きを置く考え方が「物の豊かさ」を上回り、以降、上昇傾向をたどり、平成24年には過去最高の64%となる。



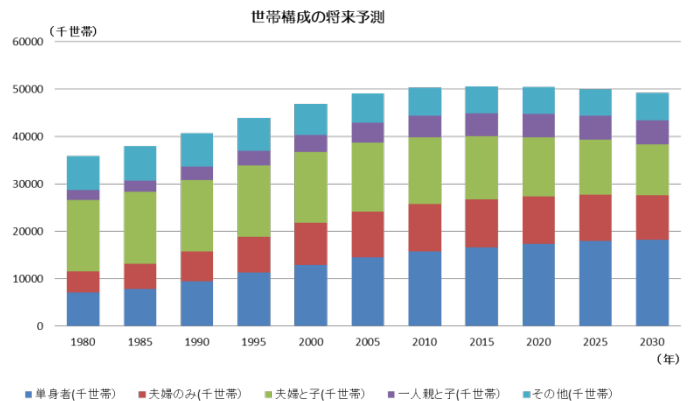
2 低成長・成熟化時代の都市のパラダイム

（1）人口減少社会（全国人口推計）

- ・全国的な人口減少時代の中で、2020年以降すべての都市が人口減少局面を迎える時代。
- ・東京を中心とする首都圏が2025年から速いスピードで高齢者が増加する時代。

（2）世帯構成の将来予測（全国世帯構成予測）

- ・2010年の国勢調査結果で、世帯構成割合において、単身世帯、夫婦二人世帯が51.3%（50,287千世帯）の内となり、過半数を超えた。2030年には世帯構成の56.6%（48,802千世帯の内）を



占めることが、予測される。

- ・単線世帯、夫婦二人世帯、一人親世帯が増加し、夫婦と子世帯、その他世帯（三世代以上同居等）が減少傾向を示す。三世代同居の減少傾向は扶養意識の変化とともに、年金や高齢者福祉のニーズを高め、子育て支援を家庭外に求める傾向が予測される。

（３）平均寿命の延伸と健康寿命の変化

- ・社会人口問題研究所の日本の将来推計人口予測によれば、2013年から2022年にかけて、平均寿命は男性80.09から81.15年、女性は86.80から87.87年へとさらに伸びることが予測され、平均寿命の延伸と共に、不健康な期間も伸びることが予測される

（４）人口減少による人口密度の低下と行政コストの相関関係

- ・人口減少に伴い、人口密度が低下するにしたがって、1人あたり行政コストが増加する傾向にある。人口構成の占める高齢者の割合が高くなると一人当たりの財政支出が上昇する傾向にある。

（５）少子化による児童生徒数の減少と小中学校の廃校

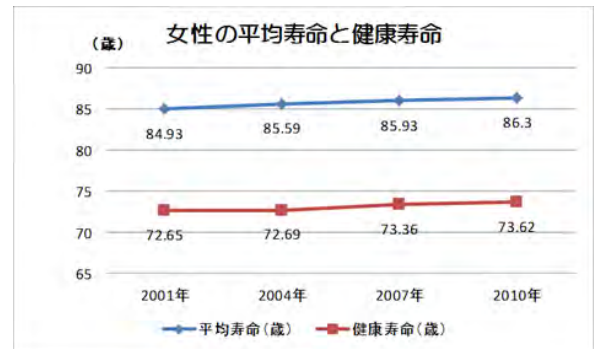
- ・少子化による児童生徒数の減少などにより、平成23年度に新たに廃校になった公立学校（小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校）は、全国で474校。廃校調査開始以来、毎年400校から500校前後の公立学校が廃校となっている。
- ・調査を開始した平成4年度から平成23年度までの20年間で、廃校となった数は6,834校。

（６）経済成長期に築造された社会資本の老朽化と維持管理コスト

- ・2029年には、全国で築後50年以上になる道路・橋梁が全体の過半数を越え、その内、市町村管理道路が84.1%を占める。
- ・今後、社会資本の老朽化に伴い、維持管理・更新費の増大が見込まれる。2011年度から2060年度までの50年間に必要な更新費（約190兆円）のうち、約30兆円（全体必要額の約16%）の更新ができないと試算している。
- ・社会資本の老朽化問題は、すでに自治体でも始まっている。
- ・社会資本の本質は、物理的寿命と社会的寿命、人口減少による行政サービス施設の統廃合問題といえる。

（７）人口減少時代における自治体経営の将来展望

- ・生産年齢人口の減少により自治体の歳入も減少。
- ・不健康な期間の上昇により医療費・介護費が増加。
- ・家庭での子育て、介護などの外部経済化。
- ・コミュニティにおける社会関係資本を脅かすリスクが潜む。
- ・児童・生徒の減少による小中学校の廃校問題の惹起。
- ・公共サービス・民間サービス施設の縮減。
- ・社会資本の老朽化と社会的寿命による社会資本の適正化。



(8～10) 平塚市の将来人口推計予測と地方税・扶助費の関係予測

- ・人口減少時代の歳入・歳出の将来予測を読み解く。

3 低成長・成熟化時代の新しい総合計画のあり方

(1) 総合計画の経緯

- ・1969年、地方自治法の改正：基本構想の策定を義務付けがなされる。
- ・2011年地域主権改革関連一括法の制定による地方自治法改正により、市町村の「基本構想策定義務」が廃止となる。

(2) 自治基本条例と総合計画の役割と意義

- ・自治基本条例に基づき、まちづくりの指針を具体化した市政運営の基本となる計画。
- ・自身体経営の仕組みと政策・施策の実現手法の計画体系化＝行政の総合性の担保。
- ・自治体行財政の効率的運営＝行政システムの統合化。
- ・市民と行政の連携・協働の仕組み。
- ・地域課題の客観的把握＝エビデンス（根拠）による現状把握と将来予測。
- ・市民活動・民間活動へのガイドラインや創発・共創を生み出す仕組みの提供。

(3) これからの自治体経営のシステムづくり

- ・これからの自治体経営を支える経営システムづくりに向けての方向性とは。
- ・未来に責任を持つ行政経営。

(4) 地域が蓄積してきた地域資源の発掘と活用（市民資産）

- ・人的資本、社会関係資本、人口資本、自然資本とは何か、私たちが蓄積してきた市民資産をどう有効活用するかが、これからのまちづくりのキーワード。

(5) 低成長・成熟化時代の新総合計画の課題

- ・地域の持続可能性と自治体の自立を可能にする総合計画をどのように構築するか。

(6) 低成長・成熟化時代のまちづくりのキーワード

- ・これまでの時代のまちづくりのキーワード、これからの時代のまちづくりのキープを考える。

(7) 真の豊かさと幸せを追求する仕組み

- ・地域で豊かさが循環する仕組みとは何か。

(8) 平塚市総合計画市民ワークショップへの期待

- ・市民の皆さんの生活実感の「気づき」から、平塚市の「将来のあるべき姿」を考える。
- ・キーワードは、「自分ごと」から「みんなごと」「世間ごと」の視点を持ち、地域の課題を地域の住民が解決できるものは何かを考える。
- ・これからの時代、真の豊かさと幸せを追求するためには、市民力・地域力と行政力の連携が鍵を握る。
- ・行政は、市民と行政の連携を前提に、真の豊かさと幸せを実現するため、限られた経営資源を選択と集中により、基盤となるセフティーネット・インフラを担う役割が求められる。

このページは白紙です

低成長・成熟化時代の新しい総合計画のあり方
ー私たちはどのような時代に暮しているのかー

長瀬光市（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任教授）
平成27年1月17日

1. 人口増加・経済成長を前提とした都市のパラダイム

1 人口増加・経済成長を前提とした都市のパラダイム				
(1) 拡大・成長時代とは				
高度経済成長期 (1955～1973)	安定経済期 (1974～1985)	バブル経済期 (1986～1990)	失われた20年 (1991～2010)	人口減少時代 (2011年～)
【人口】 ・人口増加都市集中 ・人口84.7%増 ・三大都市圏へ46.1%集中 ・地方・人口減少 ・人口1億2千万人 ・70年平準化人口 ／16万5千人	・団塊世代の就職と農村からの移住終了 ・東京圏都市人口増加へ ・人口1億2千万人 ・80年平準化人口 ／21万5千人	・好景気の人口移動 ・再び東京圏を中心に ・地方再び人口減少へ ・人口1億2千万人 ・90年平準化人口 ／24万5千人	・格差が顕明に ・37歳以下人口減少 ・05年団塊世代より、 ・37歳以上人口減少社会 ・人口を予測 ・1億2千万人 ・2010年平準化人口 ／26万人	・本格的な人口減少・高齢者増加時代へ ・高齢化率、2040年、 40.5％へ ・人口2040年9700万人 ・14年、定率率13.75% ・2014年平準化人口 ／27万7千人
【経済】 ・高度経済成長：成長と人口増加の相互促進 ・GDP平均+9.1% ・地方と地域発展 ・60年四大公営都市 ・噴出した社会環境要素 ・日照権問題発起	・安定低成長・成長期要因の消失とのパブル ・GDP平均+4.2% ・福祉と格差拡大 ・地方で、衰退産業誘致と公共投資	・プラザ合意と金融緊縮の失敗としてのバブル ・GDP平均+4.2% ・民活・都市再生 ・77年リソリト施行による自然環境破壊問題提起	・リーマンとゼロ成長 ・デフレ問題の発生 ・人口減少率の向上には東洋一極端な中もた ・たらず経済成長 ・経済のメカニズム成長続く ・自然環境破壊問題、自立は可能か	
【計画行政】 ・76年3次全統 ・68年2次都市圏整備 ・68年2次都計 ・58年首都圏整備計画 ・高度経済成長改正・基本条例の創設付与	・77年3次全統 ・76年3次都市圏整備 ・76年2次都市圏整備 ・76年2次都計 ・76年都市地区計画等にて新設4市 ・80年都計改正・地区計画	・87年4次全統 ・86年4次首都圏整備 ・86年都計改正・市開発地区計画 ・88年建築基準法改正	・98年国土デザイン ・02年三位一体改革 ・04年地方分権一括法 ・04年都市圏整備法改正、高度経済成長改正 ・06年まちづくり法改正(第6次制定)	・11年自治体財政改正・基本条例創設付与の上 ・日本創生会議、896削減可能性を都市を要否

1 人口増加・経済成長を前提とした都市のバラダイム

(2) 経済成長 (GDP) の推移

- 高度経済成長期の平均GDP+9.1%、安定経済成長期の平均GDP+4.9%、バブル経済期の平均GDP+4.2%、失われた20年期GDP平均-0.9%、低成長時代に入り、2011年、-0.3、12年-0.7、13年+2.3と経済が減速傾向を示している。

経済成長率と平均経済成長率

55-70年度平均9.1%

71-80年度平均5.0%

81-90年度平均4.2%

91-2010年度平均0.9%

マイナ成長

— 経済成長率(%) — 平均経済成長率(%)

◀ 高度経済成長期 ▶ 安定経済成長期 ◀ バブル経済期 ▶ ◀ 失われた20年期 ▶ 低経済成長期 ▶

出典：財務省経済統計資料

1 人口増加・経済成長を前提とした都市のパラダイム	
(3) 拡大・成長時代の都市のパラダイム (考え方の枠組み)	
・人口増加を前提とした高度経済成長システムの構築により、社会保障制度、高度な所得配分政策と完全雇用性、核家族を基本とした持ち家制度、社会資本の量の拡大など、物的豊かさを追求することで、衣食・住が満たされ、一定の豊かさを享受してきた。 ・「拡大、成長、上昇」の発想に基づく経済社会システムの構築により、国民が目標に向かって急成長・大躍進を期し続けることで実現した。	
システム	拡大・成長時代の都市のパラダイム(考え方の枠組み)
①経済成長	・人口増加を前提とした経済成長(GDP拡大)志向の開発モデル ・高度経済成長期(1954年～73年)平均9.1%、安定成長期(73年～80年)平均5%、バブル経済期(86年～91年)平均4.6%、失われた20年期(90年～2010年)平均-0.9%
②産業モデル	・第二次産業を中心に、自治体単体と主体とし、三大都市圏や地方圏に工業立地促進が行われ、多くの工業団地や埋立で造成が進んだ
③開発モデル	・首都圏を軸とした三大都市圏への人口流入による人口の都市への収容と工業開発モデルの適応。→市庁市の東京湾臨海工業地帯造成
④雇用と持ち家	・終身雇用・年功序列賃金等の雇用制度と国の持ち家制度実施により、核家族を中心とした持ち家制度の普及
⑤社会保障	・福祉国家理念に基づく社会保障制度(社会保障・社会福祉・公的扶助・保健医療衛生)の普及
⑥社会運営	・国の全国一様式、経済成長を前提とした市民格等の増加(地方交付税・国庫支出金等(依存財源)を前提とした、公共事業、各種サービスの実業・公共一環並み意識、地方から大都市へ人材と農産物・資源等の供給、国から、地方への税配分による社会資本整備)
⑦全国一律政策モデル	・地域の豊かさの波及は全国一律的政策方針で推進 →全国総合開発計画、官公需整備法、実定方計計画(国296、市町村91の個別計画)

1 人口増加・経済成長を前提とした都市のパラダイム

(4) 国民生活に対する満足度の変化

・「国民生活に関する満足度の世論調査」の推移をみると昭和47年を境に「心の豊かさ」の追及に重きを置くと考え方が「物の豊かさ」を上回り、以降、上昇傾向をたどり、平成24年には過去最高の6.4%となる。

年	物の豊かさ (%)	心の豊かさ (%)
47	40.0	30.0
48	41.0	31.0
49	42.0	32.0
50	43.0	33.0
51	44.0	34.0
52	45.0	35.0
53	46.0	36.0
54	47.0	37.0
55	48.0	38.0
56	49.0	39.0
57	50.0	40.0
58	51.0	41.0
59	52.0	42.0
60	53.0	43.0
61	54.0	44.0
62	55.0	45.0
63	56.0	46.0
64	57.0	47.0
65	58.0	48.0
66	59.0	49.0
67	60.0	50.0
68	61.0	51.0
69	62.0	52.0
70	63.0	45.0
71	64.0	44.0
72	65.0	43.0
73	66.0	42.0
74	67.0	41.0
75	68.0	40.0
76	69.0	39.0
77	70.0	38.0
78	71.0	37.0
79	72.0	36.0
80	73.0	35.0
81	74.0	34.0
82	75.0	33.0
83	76.0	32.0
84	77.0	31.0
85	78.0	30.0
86	79.0	29.0
87	80.0	28.0
88	81.0	27.0
89	82.0	26.0
90	83.0	25.0
91	84.0	24.0
92	85.0	23.0
93	86.0	22.0
94	87.0	21.0
95	88.0	20.0
96	89.0	19.0
97	90.0	18.0
98	91.0	17.0
99	92.0	16.0
00	93.0	15.0
01	94.0	14.0
02	95.0	13.0
03	96.0	12.0
04	97.0	11.0
05	98.0	10.0
06	99.0	9.0
07	100.0	8.0
08	101.0	7.0
09	102.0	6.0
10	103.0	5.0
11	104.0	4.0
12	105.0	3.0
13	106.0	2.0
14	107.0	1.0
15	108.0	0.0
16	109.0	0.0
17	110.0	0.0
18	111.0	0.0
19	112.0	0.0
20	113.0	0.0
21	114.0	0.0
22	115.0	0.0
23	116.0	0.0
24	117.0	0.0
25	118.0	0.0
26	119.0	0.0
27	120.0	0.0
28	121.0	0.0
29	122.0	0.0
30	123.0	0.0
31	124.0	0.0
32	125.0	0.0
33	126.0	0.0
34	127.0	0.0
35	128.0	0.0
36	129.0	0.0
37	130.0	0.0
38	131.0	0.0
39	132.0	0.0
40	133.0	0.0
41	134.0	0.0
42	135.0	0.0
43	136.0	0.0
44	137.0	0.0
45	138.0	0.0
46	139.0	0.0
47	140.0	0.0
48	141.0	0.0
49	142.0	0.0
50	143.0	0.0
51	144.0	0.0
52	145.0	0.0
53	146.0	0.0
54	147.0	0.0
55	148.0	0.0
56	149.0	0.0
57	150.0	0.0
58	151.0	0.0
59	152.0	0.0
60	153.0	0.0
61	154.0	0.0
62	155.0	0.0
63	156.0	0.0
64	157.0	0.

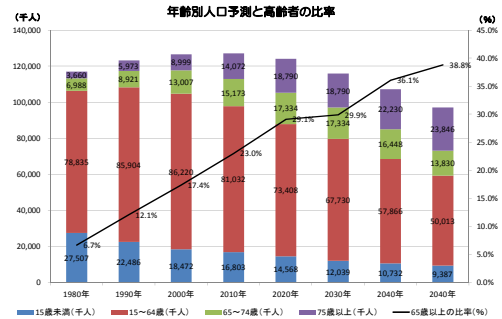
2 低成長・成熟化時代の都市のパラダイム

2 低成長・成熟化時代の都市のパラダイム

- 8

(1) 人口減少社会(全国の人口推計)

- 全国的な人口減少時代の中で、2020年以降すべての都市が人口減少局面を迎える時代
- 東京を中心とする首都圏が2025年から速いスピードで高齢者が増加する時代

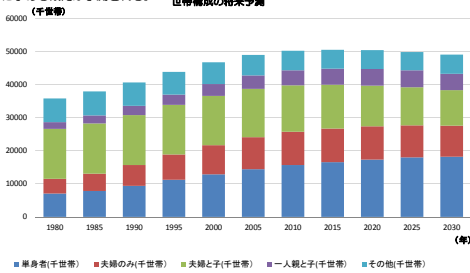


2 低成長・成熟化時代の都市のパラダイム

- 9

(2) 世帯構成の将来予測(全国の世帯構成予測)

- 2010年の国勢調査結果で、世帯構成割合において、単身世帯、夫婦二人世帯が51.3%(50,287千世帯)の内)となり、過半数を超えた。2030年には世帯構成の56.6%(48,802千世帯の内)を占めることが予測される。
- 単身世帯、夫婦二人世帯、一人親世帯が増加し、夫婦と子世帯、その他世帯(三世代以上同居等)が減少傾向を示す。三世帯同居の減少傾向は扶養意識の変化とともに、年金や高齢者福祉のニーズを高め、子育て支援を家庭外に求める傾向が予測される。

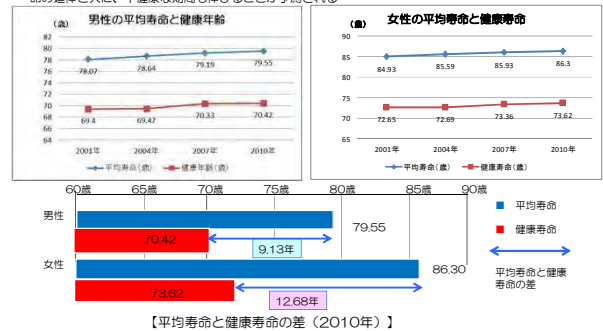


2 低成長・成熟化時代の都市のパラダイム

- 10

(3) 平均寿命の延伸と健康寿命の変化

- 社会人口問題研究所の日本の将来推計人口予測によれば、2013年から2022年にかけて、平均寿命は男性が、80.09から81.15年、女性は86.80から87.87年へとさらに伸びることが予測され、平均寿命の延伸と共に、不健康な期間も伸びることが予測される

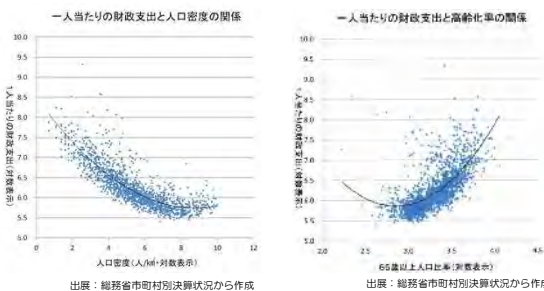


2 低成長・成熟化時代の都市のパラダイム

- 11

(4) 人口減少による人口密度の低下と行政コストの相関関係

- 人口減少に伴い、人口密度が低下するにたがって、1人あたり行政コストが増加する傾向にある。人口構成の占める高齢者の割合が高くなると一人当たりの財政支出が上昇する傾向にある。
- ⇒ 一人当たりの財政支出は、人口密度、高齢化率等との相関性が高い。

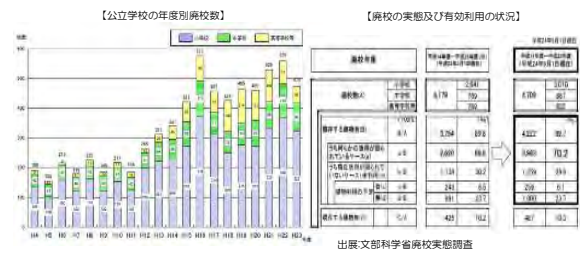


2 低成長・成熟化時代の都市のパラダイム

- 12

(5) 少子化による児童生徒数の減少と小中学校の廃校

- 平成23年度の全国小学校数21,721校、中学校数10,751校、高等学校数5,060校で、全体で37,532校存在。平成3年と平成23年を比較すると18.2%の学校が廃校。
- 少子化による児童生徒数の減少などにより、平成23年度に新たに廃校になった公立学校(小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校)は全国で474校。廃校調査開始以来、毎年400校から500校前後の公立学校が廃校となっています。調査を開始した平成4年度から平成23年度までの20年間で、廃校となった数は6,834校。

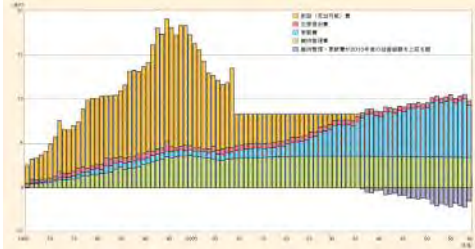


2 低成長・成熟化時代の都市のパラダイム

- 13

(6) 経済成長期に築造された社会資本の老朽化と維持管理コスト

- 2029年には、全国で築後50年以上になる道路・橋梁が全体の過半数を越え、その内、市町村管理道路が84.1%を占める。
- 今後、社会資本の老朽化に伴い、維持管理・更新費の増大が見込まれる。国土交通省所管の社会資本（道路、港湾、空港、公共賃貸住宅、下水道、都市公園、治水、海岸）を対象に、過去の投資実績等を基に今後の維持管理・更新費（災害復旧費を含む。以下同じ。）を推計したものである。2011年度から2060年度までの50年間に必要な更新費（約190兆円）のうち、約30兆円（全体必要額の約16%）の更新がでない」と試算している。



- 社会資本が抱える課題は、物理的寿命、社会的寿命と人口減少に伴う施設廃止、人口密度低下による社会資本の適正化。

出展：国土交通省社会資本更新費予測

2 低成長・成熟化時代の都市のパラダイム

- 14

(7) 人口減少時代における自治体経営の将来展望 ①

人口減少とは生産年齢人口の減少

- 生産年齢人口の減少により自治体の歳入も減少
- 自治体の歳入の内4割（平塚市約5割）ほど占める市民税収入が減少⇒納税してくれる働き手が極端に減少する深刻な問題
- 人口減少により、消費税（自治体の消費税収入2014年4月に1.7%）も人口減少動態と連動⇒2014年4月8%、2015年10月（2.2%）消費税10%アップで一時的に歳入は増加
- 人口減少により、地方交付税（国の原資は、所得税、法人税、酒税、たばこ税と消費税）も人口減少動態と連動⇒国が財政的に自治体を支えられなくなる

平均寿命の上昇と高齢者の増加

- 不健康な期間の上昇により医療費・介護費が増加
- 平均寿命の延伸と共に、不健康な期間も伸びることが予測され、平均寿命と健康寿命の差が拡大⇒要介護者などの増加により医療・介護・福祉サービスの歳出圧力が高まる

世帯構成の変化

- 家庭での子育て、介護などの外部経済化
- 三世帯同居の減少傾向は扶養意識の変化とともに、年金や高齢者福祉のニーズを高め、子育て支援を家庭外に求める傾向が予測される⇒子育て、介護等の歳出圧力が高まる
- コミュニティにおける社会関係資本を育みやすリスクが薄む⇒地域コミュニティの脆弱性

2 低成長・成熟化時代の都市のパラダイム

(7) 人口減少時代における自治体経営の将来展望 ②

- 15

人口減少による少子化

- 児童・生徒の減少
- 児童・生徒の減少による小中学校の廃校問題の惹起⇒廃校処理・地域コミュニティの核機能喪失

人口減少・市街地低密化

- 公共サービス・民間サービス施設の縮減
- 人口減少による市街地の低密化により、人口規模・人口密度を前提に配置されてきた、集会所・公民館・体育館、支所・図書館・学校等の公共サービス機能の見直しが生じてくる。
- 人口規模減少・人口密度の低下により食料品店・スーパー・コンビニ・銀行・診療所・映画館・バス等の公共交通などの民間サービス機能の廃止、見直しが生じてくる。

物理的寿命と社会的寿命

- 社会資本の老朽化と社会的寿命による社会資本の適正化
- 経済成長期に整備された、道路・橋梁・上下水道・公園や学校・市民会館・図書館・公民館・体育館・地区施設などが今後老朽化時期を向え、機能更新や維持費に膨大な投資が必要となる。⇒長寿命化、社会資本の適正化
- 経済成長期に整備された、機能別施設（子どもの家・老人の家・集会所等）は世代構成の変化により、利用者が減少する、社会的寿命問題が生じる。⇒スクラップアンドビルド

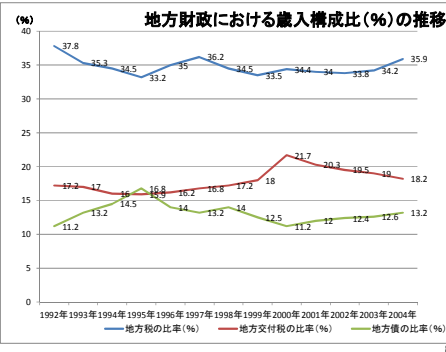
人口減少に伴う、施設見直しと物理的寿命・社会的寿命のダブルパンチ

2 低成長・成熟化時代の都市のパラダイム

- 16

(8) 全国自治体地方財政における平均的歳入構造の現状

地方財政における歳入構成比(%)の推移



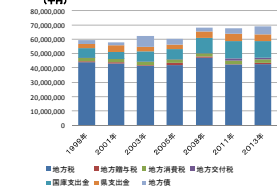
出展：財務省経済統計資料

2 低成長・成熟化時代の都市のパラダイム

- 17

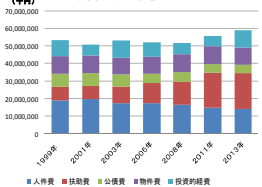
(9) 平塚市の性質別歳入・歳出の推移

性質別歳入の推移



- 性質別歳入の特徴
- 人口減少が始まっていく、総人口に占める生産年齢比率が高いため、地方税収入に大きな変動がなく、歳入の約50%以上を地方税が占める。
- 平塚市は財政が比較的豊かなため、地方交付税の占める割合が約1.7%と低い
- 基礎自治体の歳入構成と比較すると、平塚市は自主財源比率が高い。

性質別歳出の推移



- 性質別歳出の特徴
- 扶助費が増加傾向を示す、他方、人件費は減少傾向にある。
- 扶助費の増加により、投資的経費は減少傾向にある。

出展：平塚市決算カードにより作成

2 低成長・成熟化時代の都市のパラダイム

- 18

(10) 平塚市の将来人口推計予測と地方税・扶助費の関係予測



(注) 将来予測データは、国立社会人口総合研究所の将来人口推計に基づき、過去10年間の決算カードデータを用いて、数値推定法で将来予測推計したものである。

	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040
地方税	43,671,595,000	41,211,446,349	39,657,453,302	38,548,880,405	36,899,166,695	34,368,312,382	31,221,527,514
扶助費	14,291,884,000	17,219,786,503	18,728,421,749	19,127,598,761	19,491,028,577	20,131,110,598	21,046,290,599
高齢化率	21.2	25.5	28.1	29.3	30.8	33.0	36.0

出展：慶応大学シミュレーション

3 低成長・成熟化時代の新しい総合計画のあり方

3 低成長・成熟化時代の新しい総合計画のあり方

- 20

(1) 総合計画の経緯

1966	国で計画行政体系（総合計画）の提案（基本構想・基本計画・実施計画）
1969	地方自治法の改正：基本構想の策定を義務付け（議会同意） ※ 地自法第2条4項「市町村は、その事務を処理するに当たっては、議会の議決をえてその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行うようにしなければならない」
1970 年代前半	国が各種法定基本計画に対して、基本構想との調和義務づけ（総合性担保） ※ 例：都市計画法に基づく都市マスタープラン、 老人福祉法に基づく老人保健福祉計画、 障がい者福祉法に基づく障がい者福祉計画
1990 年代後半	市町村の99%が基本構想策定、セッ（基本構想・基本計画・実施計画）での策定は95%（総合計画の定着）
2011	地域主権改革関連一括法の制定による地方自治法改正により、市町村の「基本構想策定義務」が廃止 つくる、つくらない、の判断は自治体に任された

3 低成長・成熟化時代の新しい総合計画のあり方

- 21

(2) 自治基本条例と総合計画の役割と意義

平塚市自治基本条例

（まちづくりの指針）
第8条 市は、次に掲げる指針により、市民が幸せに暮らすまちを目指します。
（1）世界の人々と相互理解を深め、多様な文化が共生し、人々が平和に共存するまちにします。
（2）豊かな人間性と文化をばくみ、基本的人権を擁護するまちにします。
（3）互いに支え合い、誰もが安心して、安全に暮らすまちにします。
（4）自然環境と都市基盤が調和し、自然と人が共生するまちにします。
（5）産業を培い、活力とにぎわいのあるまちにします。
（総合計画等）
第19条 市は、この条例の趣旨に基づき、総合的かつ計画的な市政運営の基本となる計画（以下「総合計画」といいます。）を策定します。
2 市の執行機関は、総合計画の進行管理を行い、その状況をわかりやすく公表します。
3 市の執行機関は、行政分野ごとの計画の策定に当たっては、総合計画との整合を図ります。

まちづくり指針の具体化

総合計画の役割と意義

- 自治基本条例に基づき、まちづくりの指針を具体化した市政運営の基本となる計画
- 自治体経営の仕組みと政策・施策の実現手法の計画体系化＝行政の総合性の担保
- 自治体行政の効率的運営＝行政システムの統合化
- 市民と行政の連携・協働の仕組み
- 地域課題の客観的把握＝エビデンスによる現状分析と将来予測
- 市民活動・民間活動へのガイドラインや創発・共創を生み出す仕組みの提供

3 低成長・成熟化時代の新しい総合計画のあり方

- 22

(3) これからの自治体経営のシステムづくり

これからの自治体経営を支える経営システムづくりに向けて

① 人口減少と生産年齢人口の減少（税力の低下）
② 高齢者の増加（福祉・医療・施設等の需要増・負担増）
③ 多様化する住民ニーズ（誰が担うのか）
④ 社会資本の老朽化・社会寿命に即した更新（社会資本の最適化）
⑤ 産業基盤の脆弱性（産業モデルの転換）
⑥ 地域社会（コミュニティ）の持続性の危機（住民自治の再構築）
⑦ 社会活動の減少（ソーシャルキャピタルの蓄積を脅かすリスク）

様々な転換を可能にする経営システム

- ・過度な経済成長を前提としない社会構造への転換⇒持続可能性
- ・住民と行政の役割と責任の分担⇒地域経営の発想
- ・豊かさや幸せを追求する新たな都市を見る価値観の転換⇒住み続けるまち
- ・地域の持続可能性と自治体の自立の追求⇒政策実験
- ・行政運営から行政経営への転換⇒地域の未来に責任を持つ経営体

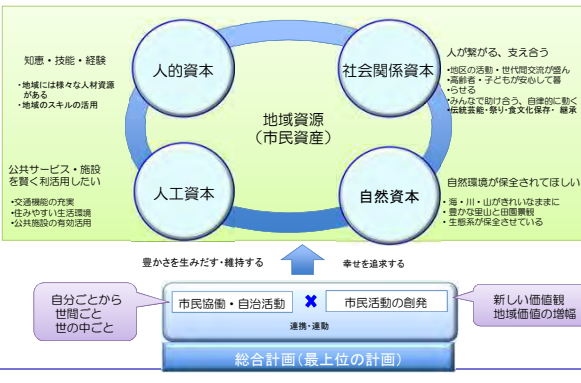
自治体経営の最上位計画としての新総合計画

市民と行政の協働・連携を基本とした、自治体経営を支える地域経営と行政経営の構築（計画行政のトータル・システム化）＝未来に責任を持つ

3 低成長・成熟化時代の新しい総合計画のあり方

- 23

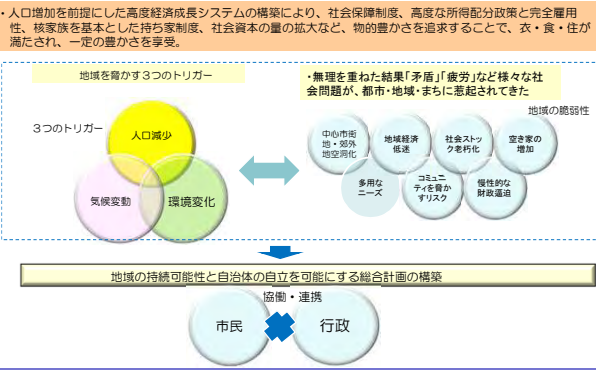
(4) 地域が蓄積してきた地域資源の発掘と活用（市民資産）



3 低成長・成熟化時代の新しい総合計画のあり方

- 24

(5) 低成長・成熟化時代の新しい総合計画の課題



3 低成長・成熟化時代の新しい総合計画のあり方 - 25

(6) 低成長・成熟化時代のまちづくりのキーワード

都市を見る視座の大転換

これまでの時代

- ① 量・規模を増やす
- ② More is better
- ③ よそと違うことはまずい（均質化の発想）
- ④ 悪いところを直す（減点主義）
- ⑤ 自都市の短所を見る（キャッチアップ思考）
- ⑥ ナンバーワンを目指す
- ⑦ 造つては壊す（社会ストックを維持管理しない）・維持管理志向の欠如

これからの時代

- ① 「量」よりは「質」
- ② 地域資源を発掘し、磨きをかける（地域価値の増幅）
- ③ 良いところを伸ばす（加点主義）、オンリーワンを目指す
- ④ 自都市の長所を見る（誇り・愛着思考）
- ⑤ 真の豊かさや幸せを追求する、住み続ける地域づくり=維持管理
- ⑥ まちの姿・都市の記憶を次世代に継承する、

地域の課題を住民と行政の協働・連携で解決

3 低成長・成熟化時代の新しい総合計画のあり方 - 26

(7) 真の豊かさや幸せを追求する仕組み

真の豊かさや幸せの追求

地域で豊かさが循環する仕組み

つながり

文化 育生 産業 自然環境 インフラ 福祉 医療

暮らしのネットワーク

地域資源の持続可能な利用
地域内循環の原則
住み続ける生活環境の持続

地域づくりを支える

持続可能な新しい地域産業やなりわいの創発

自助・共助で暮らしを支える仕組み

総合計画 地域づくりの実行を後方支援するための行政の体制・制度・仕組みについての方針の提示
行政が担う生活・活動・なりわいを支えるセーフティーネット

3 低成長・成熟化時代の新しい総合計画のあり方 - 27

(8) 平塚市総合計画市民ワークショップへの期待

平塚市自治基本条例

(市民の責務)
第10条 市民は、互いの自由及び人格を尊重します。
第11条 市民は、責任を持って参加をします。
第12条 市民は、市政運営に所管負担を分担します
(コミュニティの尊重)
第13条 議会及び市の執行機関は、まちづくりの担い手として、コミュニティ（まちづくりに関する課題に取り組む自治会等の地域の自治組織、市民活動団体等をいいます。以下同じです。）の自主性及び自立性を尊重します。

ワークショップで議論・検討・提案すること

生活実態

地域資源

活動実態

+

未来の地域の
目指す姿

市民の気づき

→

環境

子育て

高齢者支援

安全安心

資源継承

暮らし

自分ごとから世間ごとへ
世間から世の中ごとへ

私ができること
皆でできること
地域でできること

市民の協働
市民と行政との連携

このページは白紙です

平塚市の総合計画は？

【総合計画とは】

総合計画とは、市町村における「まちづくりの最も基本となる計画」です。本市が持つ豊かな自然環境、歴史や産業などの地域資源を生かしながら、今後想定される課題や財政状況などを踏まえながら、平塚市をどのようなまちにしていくのか、また、そのためには、だれが、どのように取り組むのかを取りまとめたものです。

【現在の総合計画は】



計画策定の初期段階から多くの市民の参加・参画を得て、まちづくりのあり方や目指すべき姿を検討し、市民の視点に立った計画として策定。

Seikatsu Kaiteki Yume

・ 名称 平塚市総合計画 生活快適・夢プラン
⇒SKYプラン

- ・ 策定：平成 19 年 6 月 26 日（基本構想議決）
- ・ 計画期間：10 年（平成 19 年度～平成 28 年度）
- ・ 構成：3 層構成（基本構想、基本計画、実施計画）

【総合計画による主な取組み】

○教育分野

- ・ 個々に多様な課題のある児童や生徒に、きめ細かな支援を行い、基礎的生活習慣の確立や学習の基礎・基本の定着を図り、教員のサポートをするための学習支援補助員等を派遣します。また、グローバル感覚を身に付けた人材を育成するため、外国人英語指導者を派遣します。

○福祉分野

- ・ 高齢者等の権利擁護を進めるため、成年後見利用支援センターを開設します。

○環境分野

- ・ 新エネルギーの利用を促進するため、家庭用太陽光発電システム及び家庭用燃料電池の設置に対し、補助をします。

○産業分野

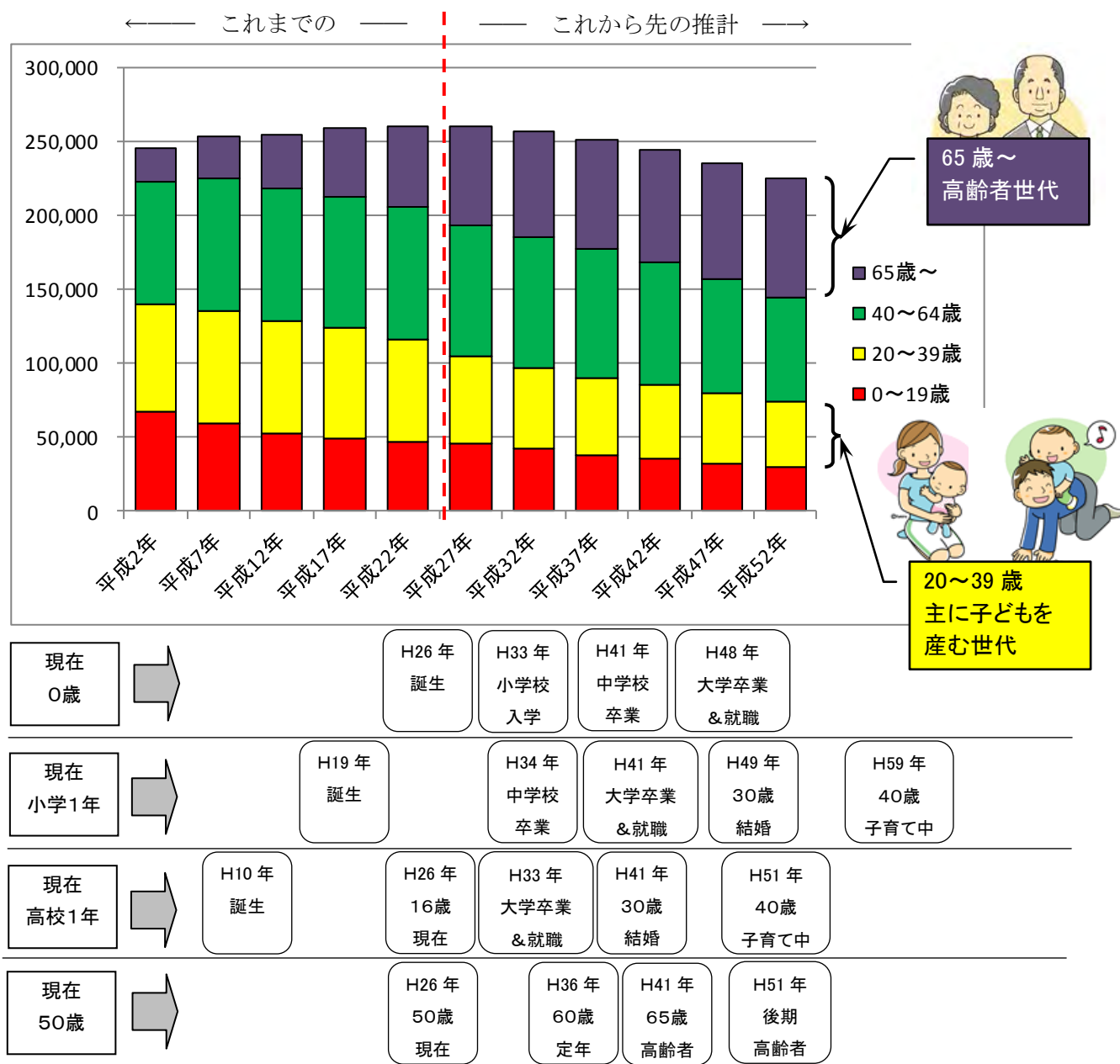
- ・ 市内でとれる農水産物を使用した加工品や飲食店との連携によるメニュー開発の支援をします。

○安心・安全分野

- ・ 風水害対策として、急傾斜地崩壊対策の促進や浸水対策を強化します。



将来の平塚市の人口予測は？



「将来人口予測」のグラフから、分かることは？

○ 紫色の部分・・・65歳以上の高齢者

- ・平成47年になると、『人口の約3人に1人は高齢者』になるとされています。
(参考：現在は、『約4人に1人が高齢者』)
- ・平成22年と平成52年（現在から26年後）を比べると、
高齢者は、約1.5倍になると予測されています。

○ 黄色の部分・・・20～39歳の主に子どもを産む世代

- ・子どもを産む女性の人口が減っていくと、それにより、子ども全体の人口（赤色の部分）も減っていくと予測されています。

○ 黄色と緑色を合計した部分・・・20～64歳の働く世代

- ・平成22年と平成52年（現在から26年後）を比べると、
働く人の人口は、約4分の3になってしまうと予測されています。

平塚市の税金の使われ方は？

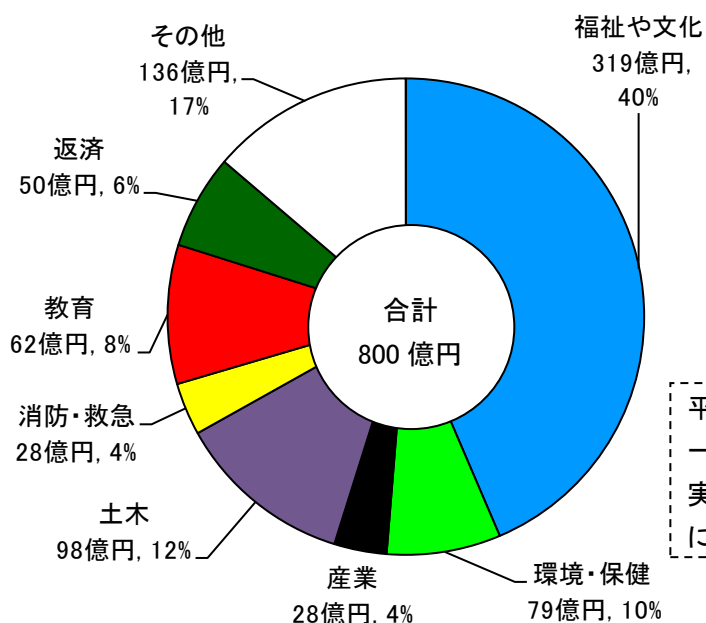
■収入は？

収入源には、

- ・税金
- ・施設などの使用料や証明書の手数料
- ・国や県からの補助
- ・基金から
- ・市債（借入金）

などがあります。

■支出は？



平成25年度
一般会計の
実績を参考
に作成

順位	項目	主な使いみち
1位	福祉や文化	(主に福祉のために使われます) ・高齢者、障がい者、低所得者の人たちの生活支援 ・保育所や学童保育、青少年の育成、文化活動の支援 など
2位	土木	・道路や橋、下水道施設、公園（総合公園、地域の公園）の整備や施設の修繕 など
3位	環境・保健	・ごみ処理（焼却や埋立）、ごみ処理施設の維持管理 ・石油以外のエネルギー利用の普及（太陽光パネルの補助など） ・予防接種、赤ちゃんや子どもの健康診断、大人のがん検診 ・平塚市民病院への補助 など
4位	教育	・小学校及び中学校の校舎などの施設の維持管理、学習教材などの購入 ・公民館やスポーツ施設（体育館、競技場）、図書館、博物館、美術館などの施設の維持管理 など
5位	返済	・過去に道路や橋、公園、建物（施設）を整備する際に起債した市債の返済
6位	消防・救急	・火事や救急活動に必要な機材の購入、消防署などの整備及び維持管理 など
7位	産業	・平塚市の産業（農業、商業、工業、水産業、観光）の振興支援 ・七夕まつりや花火大会などの開催 など
—	その他	・市議会の運営、防犯や防災対策、避難所の備蓄品購入、選挙の実施、市役所で使うコンピュータシステム、新しい市役所の建設 など

平成 26 年度平塚市市民意識調査結果概要【速報】

■【1】あなたの今後における平塚市への居住意向などについて（問1）～（問4）

【平塚市の居住意向は8割以上。住み続けたい理由は依然「温暖な気候や自然環境」が上位】

（居住意向ありについて）

『今後の平塚市への居住意向』を質問した結果、83.0%の方が「住み続ける」または「たぶん住み続ける」と回答しました。年代別に見ると、年代が上がるにつれて居住意向が高くなる傾向にあります。住み続けようと思う理由としては「温暖な気候で、海、山、川に囲まれ、自然環境が良い」が6割程度となっています。同項目は、どの年代、地区においても上位になっており、継続して平塚市の居住意向につながる大きな要素となっています。

（移転意向ありについて）

一方、「移転する」または「たぶん移転する」と回答した移転意向の方は7.2%でした。その理由としては「仕事や学校へ通うのに都合がよくない」が最も多く、次いで同率で「災害や犯罪に対して安心して生活できない」「バス・鉄道・道路・橋などが整備されておらず、市内外への移動がしづらい」「家族の都合で」となっています。年代別に見ると10代、20代で高く、それぞれの理由の1位も「仕事や学校へ通うのに都合がよくない」であることから、進学や就職のために市外へ移転することが多いことが推測できます。また、地区別に見ると、全11地区中7つの地区で「仕事や学校へ通うのに都合がよくない」が最も高くなっています。転出意向を持つのは比較的若年世代が多いことが影響していると思われます。

（魅力や誇りにについて）

最後に居住意向とは別に『平塚市の魅力や誇りに感じる点』を伺ったところ、「総合公園など施設の充実した規模の大きな公園」が41.0%と平成25年度調査と同様に高くなり、2位の「災害や犯罪が少なく、安心して生活できる環境」の26.6%を大きく上回り支持を得ています。

■【2】生活の満足感や、困っていること・心配ごとについて（問5）～（問7）

【現在の生活に満足している方は6割以上。ただし、経済的な悩みを持つ市民が増加】

『生活の満足度』は「満足している」または「まあ満足している」と回答した方は63.9%でした。この割合は10代が最も高く、30代が最も低くなっています。

また、「やや不満である」または「不満である」と回答した方の割合は、30代（25.7%）が最も高く、次いで20代（19.7%）、40代（18.2%）となっており、平成25年度調査と同様に20代から40代で不満を抱える傾向にあります。

困っていることや心配ごとについて、平成25年度の調査結果と比較すると、「今後の収入や資産の見通し」や「今後の収入や資産の見通し」の割合が高くなっています。このような傾向は、30代から40代における傾向としても見られることから、同年代における経済的な不安感が大きいと考えられます。

また、『悩みや不安を話せる人』について質問したところ、8割以上の方が「家族・親族」、次いで5割以上の方が「友人」に話せると回答しています。また、年代別では、60代以上の方は「地域や近隣の人」と回答する割合が高くなっています。特に70代以上の方では、21.3%と高く、地域とのつながりが生活の上で重要であることが伺えます。

■【3】地域のために、地域（あなた）ができることについて （問8）～（問10）

【地域で取り組むとよいと思うことは「防災訓練など災害時に地域で助け合えるようにすること」。実際の地域への関わりはまだ少ない】

住みよい地域にするためには、地域の方の関わりが必要であることから、『地域で取り組むとよいと思うこと』、『実際に地域のために行っていること』、『できること（してみたいこと）』について伺いました。

まず、地域で取り組むとよいと思うことは、割合が高い順に「防災訓練など災害時に地域で助け合えるようにすること」、「高齢者や障がい者など地域で困っている人を地域で支え合うこと」、「子どもの見守りや夜回りなど地域の安全を守ること」となっています。

また、『現在行っていないことで、今後できること（してみたいこと）』について伺った結果では、8割以上の方が何らかの取組みができる（してみたい）としており、地域活動への関心が伺えます。

このような意識の高さは、平成25年度の調査においても同様に見られましたが、今回の調査において『実際に行っていること』について伺ったところ、「特にない」と回答した方が最も多く、平成25年度の調査と比較して割合が増加しています。関心はありますが、実際の行動には結びつきにくい状況となっていると思われます。

■【4】まちづくりの状況について （問11）

「平塚市総合計画 生活快適・夢プラン」に基づき実施している本市のまちづくりに対して市民がどのように感じ、それぞれの基本目標をどう評価しているかを把握するための質問です。

基本目標ごとに次のようなグループ名を付けて伺っています。

基本目標		満足度※1				重要度※2			
		今回調査		前回調査		今回調査		前回調査	
1	学校教育・生涯学習・交流	12.2%	②	11.3%	②	54.2%	④	55.1%	④
2	地域づくり・子育て・福祉	8.8%	③	8.4%	④	58.7%	②	57.4%	②
3	環境・都市基盤	20.0%	①	22.5%	①	59.4%	①	55.6%	③
4	産業	3.4%	⑤	4.9%	⑤	44.3%	⑤	43.1%	⑤
5	安全・快適・行政	8.0%	④	9.2%	③	58.2%	③	58.9%	①

※1 「十分満足」と「満足」を合わせた割合

※2 「たいへん重要」と「重要」を合わせた割合

※3 ○付数字は順位

満足度については、各基本目標において「たいへん満足」と「満足」を合わせた割合が各基本目標とも3割を超えていません。満足度の順位としては前回同様、「基本目標3」が最も高くなっています。

重要度については、「たいへん重要」と「重要」を合わせた割合の順位として、「基本目標3」が最も高くなり、前回調査時の3位から上昇しています。しかし、「基本目標2」や「基本目標5」も依然高い割合となっており、全体的な傾向に大きな変化はありません。

このページは白紙です

(2) 第2回市民ワークショップ

【実施概要】

■開催日時、場所

日時：平成27年1月24日（土） 13時～16時

場所：平塚市役所本館303、304会議室（3階）

■参加者

13名（男性5名、女性8名）

■当日プログラム

1. ワークショップ

作業1：市民ワークショップの進め方について

- ・ファシリテーターの紹介、市民ワークショップの進め方の説明。

作業2：グループメンバーの共通点を見つけましょう

- ・機械的に分けたグループ（4班）で、自己紹介を兼ねたアイスブレイクとして、メンバーの共通点をさがす。

作業3：「イキイキしたまちのイメージ」について考えてみましょう

- ・まちの「プラスイメージ」、「マイナスイメージ」について、各自3枚ずつ付箋に書き、模造紙に分類して貼る。
- ・その後、各グループで意見交換を行い、「イキイキしたまちのイメージ」について、グループごとにシートにまとめ、グループ内で共有を図る。

作業4：「平塚から無くしたくないもの」について考えてみましょう

- ・「平塚から無くなってほしくないもの」について、各自3～5枚ずつ付箋に書き、模造紙に分類して貼る。
- ・その後、各グループで意見交換を行い、分類した付箋ごとに見出しをつけ、グループ内で共有を図る。
- ・さらに、グループ発表を行い、参加者全員で意見を共有する。

作業5：第3回市民ワークショップに向けて、グループ分けを行いましょう

- ・前回の基調講演や本日のワークを踏まえて、次回からのテーマ別グループに分かれる。

作業6：グループ内でのテーマの確認をしましょう

- ・話題準備カードに基づき自己紹介を行い、その後自由討論を行う。

2. 事務連絡

■実施結果

①「イキイキしたまちってどんなまち」について

- ・各グループ及び全体のとりまとめ結果は、別紙3のとおり。

②「平塚から無くしたくないもの」について

- ・各グループ及び全体のとりまとめ結果は、別紙4のとおり。

③参加者の意見等について

- ・アイスブレイクやグループワーク時における、参加者の意見は、次のとおり。

○「あなたが思う平塚の好きなところ、良いところ、好きなもの」では

- ・福祉施設が充実している（補助金がきめ細かい）
- ・総合公園の緑がきれい
- ・スポーツ施設が充実している
- ・湘南平の桜並木がきれい
- ・川がきれいで、魚が泳ぐ姿が見られる、サギもいる
- ・公共施設が充実している
- ・図書館が多くある
- ・富士山が、きれいに見えるスポットがたくさんある
- ・田畑が多く、景色が開けている
- ・家庭菜園をやりたい

○「イキイキしたまちのイメージの共通確認」では

- ・こんな街が良い（プラスイメージ）、こんな街は嫌だ（マイナスイメージ）
→ 別紙1のとおり

○「平塚から無くなってほしくないもの」では

- ・自然の多さ
- ・平坦な地形
- ・充実したスポーツ施設
- ・歴史を感じさせる平塚八幡宮
- ・湘南平
- ・緑がたくさんある公園
- ・図書館
- ・障がい者にやさしい福祉施設
- ・七夕まつり
- ・みんなの笑顔
- ・思いやりのあるたくさんのひと
- ・平塚海岸から総合公園までの緑
- ・スポーツのまちを感じさせる湘南ベルマーレ
- ・平塚駅の始発列車
- ・広い道路
- ・活気ある産業
- ・無料のごみ収集
- ・治安の良い安心できる環境
- ・使いやすい公民館などの公共施設
- ・働ける場
- ・地域で進められているあいさつ活動
- ・伸びていく地域産業
- ・特産物（市内地域ごとに考える）

○「希望するテーマに分かれて、自己紹介」では

- ・人とのふれあいを増やしたい
- ・きずなを大切にしたい
- ・何か行動をしたい
- ・自然災害が多くなっていることが心配
- ・何かに貢献したいと常々思っていた
- ・まちのイメージが良くなるようにしたい
- ・食育がとても大切だと思っている。健康にもつながるので役に立ちたい。
- ・色々なことを知りたい
- ・これまでは、特に地域のことを考えてはいなかったが、役に立ちたいと考えるようになって。
- ・自然を大切にしたい。自然を壊して何をしようとしているのか心配
- ・山並みを見ることが好き、今よりも悪い状況にしたくない
- ・もっと住みよい平塚にしたい
- ・平塚の良いなと思うところを見つけない

○「その他」では

- ・七夕まつりを開催しても平塚市にお金が落ちない
(儲かるのは露天商のみで、商店が潤わない)
- ・競輪場は、近隣の老人が集まるのみで、公営ギャンブルを行っている自治体はイメージが悪い

■当日の様子



市民ワークショップの概要説明



アイスブレイクの様子



個人ワークの様子



グループワークの様子



グループワークの発表



自由討論の様子

イキイキしたまちってどんなまち？

平成27年1月24日（土）：市民ワークショップ

マイナスイメージ	プラスイメージ
○自然が少ないまち ○犯罪が多いまち ○買い物する気になれないまち ○ゴミがあふれてきたないまち ○不親切な人が多いまち ○道が狭く、迷路になっているまち ○あいさつできる人が少ない（コミュニティがない）まち ○騒音のうるさいまち ○印象が薄く知られていないまち ○市役所の職員の対応が事務的であるまち ○道路が整備されていないまち ○人工的な緑しかないまち ○公共施設の配置にばらつきがあるまち ○あいさつする人が少ないまち ○他人の話に耳をかたむけないまち ○商店街に人が集まらないまち ○他人のことに無関心であるまち ○ゴミがポイ捨てされているまち ○イベントの情報が伝わらないまち ○安心・安全に生活できないまち ○自然が破壊されているまち ○文化にふれる機会が少ないまち ○地域の人々のつながりが薄いまち ○子供や老人が安心して医療が受けられないまち ○買い物が不便なまち ○都市部と田園とのバランスが取れていないまち ○行政と市民の気持ちが離れ、同じ目的を持ってまちづくりを行っていないまち ○交通の便が悪いまち ○空気・街中がきたないまち ○いい景色が見られない ○気の休まるところがないまち ○淋しいまち（シャッター街） ○公共施設が、中央に集中しすぎるまち ○世代間の交流がないまち ○文化的な活動がないまち ○閉鎖的・かたい感じがする・暗い感じがするまち ○買い物に不便・街中に駐車場がない・道が狭いまち ○福祉施設がないまち ○ゴミの出し方が大雑把なまち ○子どもたちがあいさつできないまち	○自然が多いまち ○犯罪が少ないまち ○買い物がしやすいまち ○ゴミが落ちていないきれいなまち ○親切な人が多いまち ○街並が整備されていて道幅が広く、交通が便利なまち ○知人でなくてもあいさつする人が多いまち ○静かなまち ○遠方でも良い街だと印象に残るまち ○市役所の職員がやさしいまち ○道路が広く整備されているまち ○自然が豊かであるまち ○公共施設が充実している、相談する場所・集まる場所が多いまち ○あいさつをする人が多いまち ○他人を思いやることができる人が多いまち ○中心市街地に活気があるまち ○他人の子供を注意することができるまち ○まちがきれいでゴミがないまち ○情報発信が充実しているまち ○ルール・マナーが守られているまち ○自然が多いまち ○文化が感じられるまち ○地域の活動が活発なまち ○子どもが元気に育っているまち ○市街地が賑わっているまち ○都市部と田園が共存しているまち ○市民と行政が、同じ思いを持ってまちづくりに取り組んでいるまち ○交通の便が良いまち ○自然が守られている（川がきれいな）まち ○いい景色が見られるまち ○気の休まる（ほっとできる）ところがあるまち ○活気があるまち ○公共施設が多いまち ○色々な世代の交流があるまち ○文化的な流れがあるまち ○明るい・人にやさしい・笑顔があるまち ○買い物が便利なまち ○福祉施設が充実し、福祉活動が活発なまち ○ゴミ出しのルールが守られているまち ○人に会ったらあいさつをするまち

イキイキしたまちってどんなまち？

【各班における個々の意見・1班】

平成27年1月24日（土）：市民ワークショップ

プラスイメージ

自然が多いまち	自然を大切に するまち
犯罪が少ない まち	犯罪のないまち
買い物が しやすい	
きれいなまち どこも美しい	ゴミが落ちて いないまち
親切な人が 多いまち	
街並が整備され 道幅が広い	交通が便利
知人でなくても 挨拶する人々	
静かなまち	
遠方の人にも 良い街と 言われるまち	印象に残るまち
市役所の職員が やさしい	

イキイキしたまちってどんなまち？

【各班における個々の意見・1班】

平成27年1月24日（土）：市民ワークショップ

マイナスイメージ			
自然が少ない まち			
犯罪が多く安心して暮らせない			
街の中で 買い物する気になれない			
街中がきたない ゴミがあふれている	モラルの悪い まち		
不親切な人が多いまち			
道が狭く迷路となっている			
あいさつができる人が少ない	近所の人でも挨拶しない	近所のコミュニティがない	マンションが多い
騒音のうるさいまち			
印象が薄く知られていないまち			
市役所の職員の対応が事務的である			

イキイキしたまちってどんなまち？

【各班における個々の意見・2班】

平成27年1月24日（土）：市民ワークショップ

プラスイメージ

道が広く
整備されている

公園が多い
緑、自然が
豊か

緑が多い

田舎すぎず
都会すぎず
丁度良い

海、山、川
が全てある

農業ができ
る場所が残
っている

公共施設が
充実している

相談する集まる
施設が多い
(公民館、介護施設)

あいさつを
よくする

自分の事と同じ
ように他人の事
も考えられる

平塚の街(中心街)
が楽しく、活気
がある

子供に注意する
ことができる

イキイキしたまちってどんなまち？

【各班における個々の意見・2班】

平成27年1月24日（土）：市民ワークショップ

マイナスイメージ

道路が整備
されていない

駅前に
駐車できない

他人の話しに
耳をかたむけ
ない

大型の商業(店)
が多く、個店が
少ない

南と北が
分断されている

ゴミがポイ捨て
されている

祭りの後のゴミ
の始末がきちん
とできてない

河川にゴミが
捨てられている

音楽(歌やイベン
ト)の場所が
分からない

富士山、湘南平
のイメージが
記号化できない

イキイキしたまちってどんなまち？

【各班における個々の意見・3班】

平成27年1月24日（土）：市民ワークショップ

プラスイメージ

ルールやマナー
を守れる人々が
住んでいる

自然や植物、
花が多いまち

緑が多い

自然のままに
自然が
残されている

海がある

教育水準が高く
文化的な人が
多くいる町

図書館が多い

芸術文化を市民
が十分に享受で
きる施設がある

地域の活動が
活発

子どもが元気に
育っている

市街地が
賑わっている

都市部と田園が
共存している

イキイキしたまちってどんなまち？

【各班における個々の意見・3班】

平成27年1月24日（土）：市民ワークショップ

マイナスイメージ

治安が悪く、 繁華街が物騒	安心して 生活できない	災害が多い	子供たちが安全 に暮らせない 状態
自然破壊が 進んでいくこと			
地域の人との つながりが薄い			
子供や老人まで 安心して医療が 受けられない			
買い物が不便			
行政と市民の 気持ちが大きく かけ離れている	誇れるものが ない		
交通の便が悪い	バスが中心部方 面しか行かない （周辺部間の移動が できにくい）		

イキイキしたまちってどんなまち？

【各班における個々の意見・4班】

平成27年1月24日（土）：市民ワークショップ

プラスイメージ

自然を守るまち	よい景色が見られる	川がきれい
活気のあるまち		
施設が多い		
いろんな世代の交流がある		
文化的な流れがある		
明るいまち	人にやさしいまち	笑顔があるまち
交通の便がいい		
福祉が充実している		
ゴミ出しルールが守られている		
人に会ったら挨拶をする		

イキイキしたまちってどんなまち？

【各班における個々の意見・4班】

平成27年1月24日（土）：市民ワークショップ

マイナスイメージ		
空気・街中が汚いまち	気の休まる所 いい景色が 見られない	
淋しいまち (シャッター街)		
公共施設が中央 に集中しすぎ		
世代間交流が ない		
文化的活動が ない		
閉鎖的なまち	かたい感じがする	暗い感じがする
買い物に 不便なまち	街中に駐車場が ないまち	道が狭い
福祉施設がない		
ゴミの出し方が 大雑把		
子どもたちが 挨拶できない		

このページは白紙です

平塚から無くしたくないもののリスト

【全班の見出し一覧】

平成27年1月24日（土）：市民ワークショップ

- 障がい者を思いやる心
- 笑顔のあふれる思いやりのあるまち
- 地域のコミュニティ
- コミュニティ
- 人と人との絆を大切に
- 今ある自然
- 街の中にあるみどり
- 自然（緑）が豊富
- 景観・自然保護
- 自然環境を大切に
- 4館ある図書館
- 市民が利用できる公共施設
- 公共施設が充実
- 医療・公園等の福祉民主的な施設
- 文化的・教育的施設
- 歴史ある建物
- 歴史的な建物・施設
- 商業設備（利便性）
- 七夕まつり
- スポーツ
- 人が集まるイベント（平塚ならではのもの）
- 文化・イベント
- 平塚は七夕まつりだ
- 交通が便利
- 活気のある商工業
- 地場産業の活性
- 治安が良い
- 地域情報局
- 税収の源

平塚から無くしたくないもの

平成27年1月24日（土）：市民ワークショップ

【1班】

※緑色：見出し

黄色：個別の意見

笑顔のあふれる 思いやりのある まち	人の心 思いやり	親切な人	
自然(緑)が 豊富	快適な自然	今ある自然	田園風景
	きれいな海岸	自然	総合公園 公園
人が集まる イベント (平塚ならではの)	七夕まつり	ベルマーレの 本拠地	
交通が便利	J R始発駅	広い道路	
活気のある 商工業	産業（工場）	買い物に 困らないまち	店
無料のゴミ収集	無料のゴミ収集		
治安が良い 地域コミュニティ	安心して 暮らせるまち		
市民が利用できる 公共施設	公民館	美術館	

平塚から無くしたくないもの

平成27年1月24日（土）：市民ワークショップ

【2班】

※緑色：見出し

黄色：個別の意見

今ある自然	湘南平	豊かな自然	川辺の美しい 景色
街の中にある みどり	総合公園	平塚八幡宮 (街中の緑)	
4館ある図書館	図書館		
障がい者を 思いやる心	障がい者に 優しいまち	老人が安心して 暮らせるまち	安全・安心に住める 町のイメージ (福祉・施設・やさしさ)
歴史ある建物	寺・神社を多く 残したい		
七夕まつり	七夕まつり 商店街の 心のつながり	平塚の七夕の歌	
スポーツ	サッカーなどの スポーツイベント		
地域放送局	F Mナパサ 地域放送		

平塚から無くしたくないもの

平成27年1月24日（土）：市民ワークショップ

【3班】

※緑色：見出し

黄色：個別の意見

コミュニティ	地域を想う気持ち		
景観・自然保護	自然	自然環境	郊外に広がる 田園部
	周辺の眺望 (河川も含む)		
医療・公園等 福祉民生的な 施設	医療機関		
文化的・教育的 施設	サッカー・野球 等のスポーツ 施設	総合公園を含む 中心部文化 ゾーン	東海大学 神奈川大学
商業設備 (利便性)	飲食店を含めた 多彩な商業設備	平塚漁港と 鮮魚店	
交通機関 (利便性)	バス		
文化・イベント	七夕まつり		
歴史的な建物や 施設	平塚八幡宮	八幡山公園内の 神社・洋館	金目周辺の景観 歴史的な記念と される地域

平塚から無くしたくないもの

平成27年1月24日（土）：市民ワークショップ

【4班】

※緑色：見出し

黄色：個別の意見

平塚は 七夕まつりだ	七夕まつり		
公共施設の充実	博物館	図書館	図書館などは 是非残してもら いたい
	体育館		
人と人との 絆を大切に	やさしさなど、 人をやさしくす るコミュニティ	人と人との ふれあい あいさつ	
自然環境を 大切に	自然環境	自然	海水浴 (砂浜)
税収の源	競輪場	各大企業	
地場産業の活性	漁場	田園風景	

このページは白紙です

(3) 第3回市民ワークショップ

【実施概要】

■開催日時、場所

日時：平成27年2月7日（土） 13時～16時

場所：平塚市役所本館 303、304 会議室（3階）

■参加者

13名（男性5名、女性8名）

■当日プログラム

1. ワークショップ

作業1：前回のふり返りと本日の流れの説明

作業2：「方策ランキング」を考えてみよう

- ・希望したテーマ（「子育て支援・高齢者福祉・市民活動」または「教育・文化」）に関する施策を行うための手段について、各自でランキングを行う。その際、ランク付けの理由も記載する。
- ・その後、各グループで意見交換を行い、グループ内のとりまとめを行う。

作業3：「ロジックツリーづくり」をしよう

- ・方策から、実行可能な具体策を導き出す手段の一つとして、論理構造型（ロジックツリーづくり）をする。
- ・作業2でとりまとめた結果をもとに、「何があったら良いのか」、「どうしたら良いのか」を考える。
- ・さらに、それができるための具体策について、「市は」、「市民は」と主語を想定して、それぞれの役割について考える。

2. 事務連絡

■実施結果

①「方策ランキング」について

- ・テーマにおける、各自の方策ランキング結果及びその理由、またグループワーク時の参加者の意見を取りまとめたものは、別紙5のとおり。

このページは白紙です

平成27年2月7日（土）
市民ワークショップ

○子育て支援・高齢者福祉・市民活動を推進するための方策ランキングについて

- ア) 市民一人ひとりが、地域を支える活動に参加する意識を高める
- イ) 障がい者、高齢者が利用しやすいよう、公共施設などの利便性を高める
- ウ) 多様な地域組織や市民活動を支援する体制や仕組みづくり
- エ) 乳幼児の親が子育ての不安や悩みを話し合い、解決する力を育む場を増やす
- オ) 地域組織や市民活動の力を育てる機会の充実
- カ) 高齢者が安心して過ごせるような地域のつながりを作る
- キ) 多様性を認め合い支え合う意識づくりの促進
- ク) 地域社会で、家庭や地域の子育て力を高める活動や学習機会をつくる
- ケ) 日本語が母国語でない人たちが生活しやすい環境づくり

1 グループ内の6名の各自の順位付け、最終順位一覧

参加者	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
a（男）	カ	イ、ア	エ、ウ、ク	オ、キ	ケ
b（男）	ア	カ、キ	エ、ク、ウ	イ、オ	ケ
c（男）	ア	イ、カ	エ、ウ、ク	オ、キ	ケ
d（女）	ア	ウ、カ	イ、キ、オ	ク、エ	ケ
e（女）	ア	イ、ク	エ、カ、オ	イ、ケ	ウ
f（女）	イ	カ、ア	エ、オ、ク	ウ、ケ	キ

2 各自の順位づけの理由

（1）第1位

参加者	方策	順位付けの理由
a（男）	カ	・ 高齢者の増加に対して、必須の施策である
b（男）	ア	・ 広報が行き届いておらず、みなさんに知らせてほしいため
c（男）	ア	・ 一人一人が思いやることが大事である ・ 何かする前に一人一人の意識を高めることが大事である
d（女）	ア	・ 横内地区に住んでいるが、外国人が多いため（多国籍） ・ 支える点が少ないのでもっとほしいため
e（女）	ア	・ 総合的に、全てに言えることであるため ・ 住んでいる人がお互いに支え合い、理解しあうことが大事である
f（女）	イ	・ 高齢者が何でもできるように、手を差し伸べる必要がある

(2) 第2位

参加者	方策	順位付けの理由
a (男)	イ、ア	・みんなに参加してもらう活動が必要である
b (男)	カ、キ	・高齢者支援のため
c (男)	イ、カ	・高齢者が、(公共施設などへ) 出かけてもうまく利用できず、利用度を高めるため ・安心して暮らせる場作りのため
d (女)	ウ、カ	・(団地では) 孤独死が多く1週間後に気付くこともあるため ・何かあった場合でも、安心して過ごせるようにしたい
e (女)	イ、ク	・障がい者、高齢者など社会的弱者へ手を差し伸べることが大事である
f (女)	カ、ア	・高齢者が健康でいられるため、運動できる場があると良い

(3) 第3位

参加者	方策	順位付けの理由
a (男)	エ、ウ、ク	・地域、市民が一体となり子育てしていくため
b (男)	エ、ク、ウ	・高齢者、子育ての順だが、女性が働く機会を増やすことが大事である
c (男)	エ、ウ、ク	・子供や孫を含め、住みやすいまちづくりが必要である
d (女)	イ、キ、オ	・地域の体制づくり、思いやり、支え合いが必要である
e (女)	エ、カ、オ	・乳幼児の親は、子育てが大変だから ・不安を抱えているが話す場がないため、場の提供ができれば良い
f (女)	エ、オ、ク	・子育てに敏感になっているので、ケアしていただける場があると良い

(4) 第4位

参加者	方策	順位付けの理由
a (男)	オ、キ	・様々な考えを様々な形にし、合わせ、追求していく
b (男)	イ、オ	・特に理由なし
c (男)	オ、キ	・それぞれの生活の多様性を一人一人が理解し助け合うことが大事である
d (女)	ク、エ	・教えてあげたいが、若い母親に言葉をかけても反応がない
e (女)	イ、ケ	・一人一人の接点がなく、溶け込みやすい環境を外から作っていくことが大事である
f (女)	ウ、ケ	・外国人が多く、夜歩くと怖い ・一緒に暮らしているので、何かの形で溶け込みたいから

(5) 第5位

参加者	方策	順位付けの理由
a (男)	ケ	・日本語が母国語へ
b (男)	ケ	・経験がなく、保守的に考えたため
c (男)	ケ	・直接関わったことがなく、接し方がわからないため
d (女)	ケ	・各国での生活習慣の違いはあるが、外国人ともっと仲良く暮らしたいため
e (女)	ウ	・市民活動は、ある程度できているのではないと思う
f (女)	キ	・個別にはできるが、市全体となると難しいため

3 各自発表後のフリートークでの意見

- ・公共施設で行う催し物などに参加したくても、その場所がわからない
- ・広報紙が濡れたままポストに入っていた
- ・情報が入らないと市民の意識は変わらない
- ・地域、市で行っていることがあっても参加しない
- ・「行ってもいいのか。」という気持ちがある
- ・平塚は、保守的で男性の地域参加が少ない
- ・老人会はあるが、地域でもっと助け合っていける機会があると良い
- ・地域で積極的に声掛けされない
- ・声が掛けられないと自分から行けない
- ・きっかけが少ない
- ・役員が積極的でないとコミュニティが生まれない
- ・顔見知りにならないといけない
- ・一人一人の意識を高めるにはどうしたらいいか
- ・週に1度学校に行くなど、義務化するのか
- ・松原地区の老人会に入っているが、今度の日曜も地域の清掃を行う
しかし、出てくる人はいつも決まっており、仲良しの輪に入りにくい面がある
- ・誰かがリーダーシップをとらないとならない
- ・先頭に立つ人が声掛けしないと人が集まらない

○教育・文化を推進するための方策ランキング

- ア) 様々な対象に向けた生涯学習の機会や文化活動の機会を充実する
- イ) 優れた芸術・文化を鑑賞する機会の充実
- ウ) 地域文化を理解する機会や交流活動の充実
- エ) 子ども時代に学ぶ意欲、生きる力を身につける環境をつくる
- オ) 価値ある歴史的遺産を守り伝える環境づくり
- カ) 豊かな自然環境、景観を守り、自然と文化のつながりを学ぶ機会の充実
- キ) 生涯にわたる学習・スポーツ・レクリエーションを楽しむ環境の充実
- ク) いのちを大切に作る心もち、社会性や規範意識を身につける環境をつくる
- ケ) 学術・文化・スポーツなどを通じた市民の交流活動推進

1 グループ内（7名）の各自の順位付け、最終順位一覧

参加者	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
a（女）	ア	カ、キ	エ、オ、ク	ウ、ケ	イ
b（女）	ク	エ、カ	ア、イ、キ	ウ、ケ	オ
c（男）	ケ	エ、ク	イ、カ、キ	ウ、オ	ア
d（女）	イ	オ、カ	ア、キ、ケ	ウ、エ	ク
e（男）	ア	オ、カ	ウ、ク、ケ	エ、キ	イ
f（女）	エ	イ、カ	ア、オ、ク	ウ、ケ	キ
g（女）	イ	ア、エ	オ、カ、ク	ウ、ケ	キ

2 参加者の順位づけの理由

（1）第1位

参加者	方策	順位付けの理由
a（女）	ア	・自分がしていることだから
b（女）	ク	・いのちは大切だから
c（男）	ケ	・平塚市の特徴的なものであるため ・「住みたい」と思うためのイメージ作りが重要だから ・土地の価値が上がるようにするため
d（女）	イ	・平塚市には、市民センターや公民館はあるが、優れた芸術・文化の鑑賞機会が不十分で、他市に出向かなければならないため ・市にあれば、人が集まってくる。
e（男）	ア	・都会的な環境ではあるが、自然が残っているため ・最終的には、子どもには伝えなければならないが、伝えるためには、まずは自分が知ることが必要である
f（女）	エ	
g（女）	イ	・自分が関わっている分野であるから ・チャンスを生かすことが大事である

(2) 第2位

参加者	方策	順位付けの理由
a (女)	カ、キ	・地域の歴史を学び、守りたいため
b (女)	エ	・子供時代に習慣化することが必要である
c (男)	カ	・自然は、子どもにとっても良いから
d (女)	エ、ク	・ルール違反が多いため ・イメージを悪くする要因だから ・歴史的景観や由来のあるものがないため
e (男)	オ、カ	・特に理由はない
f (女)	オ、カ	
g (女)	イ、カ	・芸術や文化に触れる機会は、心の安定につながるため
a (女)	ア、エ	・「イ」につながるものであるため

(3) 第3位

参加者	方策	順位付けの理由
a (女)	エ、ク、オ	・子供時代に基本的なことを身に付けるのは大事である
b (女)	ア、イ、キ	
c (男)	イ、カ、キ	
d (女)	ア、キ、ケ	
e (男)	ウ、ク、ケ	
f (女)	ア、オ、ク	
g (女)	オ	・まちが戦争で焼けた中でも、意味のあるものは残ってきた ・平塚には、歴史的な遺産がないとは思っていない ・すべての市民が共有すべきもの ・未来や平和に対する教育はされておらず、子どもたちに伝えていかなければならない ・社会性やルールを守る心を大事にしたい
	カ	・自然は他の都市にもあるが、暮らしの中で触れられる環境があることは良い ・自然を壊すことなく、残していきたい
	ク	・命を大切にする心を大切にしたい

(4) 第4位

参加者	方策	順位付けの理由
a (女)	ウ、ケ	・ ひきこもらないで、外に出ることは大事のため
b (女)	ウ、ケ	
c (男)	ウ、オ	
d (女)	ウ、エ	
e (男)	エ、キ	・ 手段であるから
f (女)	ウ、ケ	
g (女)	ウ、ケ	・ 地域文化として、何かしら残されているかもしれないから ・ 地域文化が廃れていくことは残念である ・ 地域文化を作るのではなく、探すことも必要である

(5) 第5位

参加者	方策	順位付けの理由
a (女)	イ	・ 足を伸ばせば、たくさんあるから
b (女)	オ	・ 全部揃ってから実現可能なことだから
c (男)	ア	・ 生涯学習は、自分でやろうと思えばでき、場を整備する必要はないため ・ この分野は自発的なもので、行政が行う順位としては低いと思うため
d (女)	ク	・ 今の時代には、命の大切さを教えることが必要なため
e (男)	イ	・ 原点だと思うから
f (女)	キ	・ 子育て支援センターやつどいの広場などがあり、子育て支援に力を入れていることが、子育てをして分かったため ・ これからも、もっと感じていけると思う
g (女)	キ	・ 活動が活発になれば、あとから付いてくるものである ・ 行って何かをやりたいではなく、まずは人が集まって話し合うことが必要である ・ 必要なのは、もの（施設）ではないと思うため

3 各自発表後のフリートークでの意見

- ・ やりたいと思ったら、すぐに行うことができ、そのことは幸せだと感じられた
- ・ 足りないとか、不足していることを市役所に言うために参加はしていない
- ・ 施設（整備）の要望は考えていない
- ・ 平塚は、自然もあり文化もあり、いいところだと思っている
- ・ 子どもは、どこにいても育つと思うが、将来の教育や文化がもっと充実することが大事だと思う
- ・ 文化には、スポーツや芸術があるが、全部をすることはできないと思うので、特色を出してPRすることが大事だと思う

■実施結果

②「ロジックツリーづくり」について

- ・各自のランキングで、上位に位置付けられた施策から、グループワークを行う施策を選定し、ロジックツリーづくりを実施した。その際の参加者の意見は、次のとおり。また、とりまとめ結果は、別紙6のとおり。

○「子育て支援・高齢者福祉・市民活動」のテーマでは

☆高齢者が、安心して過ごせるような地域のつながりを作るために

- ・防災無線が聞こえない
- ・訓練を行うことが必要
- ・行政の支援は、いざという時に機能しないのではないかと

☆市民一人一人が、地域を支え合う活動に参加するために

- ・学校（の校舎内）など、行政が活動できる場を提供する
- ・町内福祉村

○「教育・文化」のテーマでは

☆様々な対象に向けた生涯学習の機会や文化活動の機会を充実する

- ・「生涯学習」という言葉は、古いイメージがある
- ・コーヒーを飲みながら、本が読める場所があれば人が集まってくる
- ・イベントが継続して行われ、そこに教育や文化が加わると、もっと素晴らしいものになる
- ・湘南ベルマーレをもっと有効活用することにより、平塚のPRにもなる
- ・平塚は、花を育てるにはいい場所（土地柄）なので、それも有効に活用することが大事である

○「フリートーク、その他の意見」として

- ・地産地消を推進したくとも、駅の近くに平塚産の商品を売っている場所がないので買えない
- ・駅前に自転車を止める場所が少ない
- ・駅前大通りの駐車場は、いつも一杯であり、買い物する気になれない
- ・競輪場ではなく、花菜ガーデン行きの無料バスを走らせると、もっと人が呼び込めると思う
- ・市内を循環するバスがあれば、移動がしやすくなる
- ・新しく整備している小波公園には駐車場がない（整備されない）
- ・公共施設も含め、施設に駐車場が少ないので、無料駐車場が整備されるといい
- ・健康に生き生きと暮らせるためには、食育が必要。特に、子育て世代の20代～30代の食生活がひどい。若い時から、食育を大切にすることが大事
- ・口腔ケアが大事であり、健康寿命を延ばすことは、医療費を削減し、市の財政面にも良い
- ・競輪場や歓楽街があり、平塚は治安が悪いイメージがある
- ・不動産の価値が下がる

- 他市から人が集まってくる、まちづくりが良い
- スポーツが特色となる
- 特色あるまちづくりをしなければ、他都市と同じになる
- アドバンテージを生かすことが大事である
- 知らないうちに税収が減り、損をしている
- チャンスを作っていかなければならない
- 市民の思いがあれば、実現できることもある
- 市民が集まり、考えていくことが大事である
- 誰かが口火を切り、経験のある人が必要なら呼んで来て、人ともっと知りあうことが大事である

■当日の様子



個人ワークの様子



個人ワークの様子



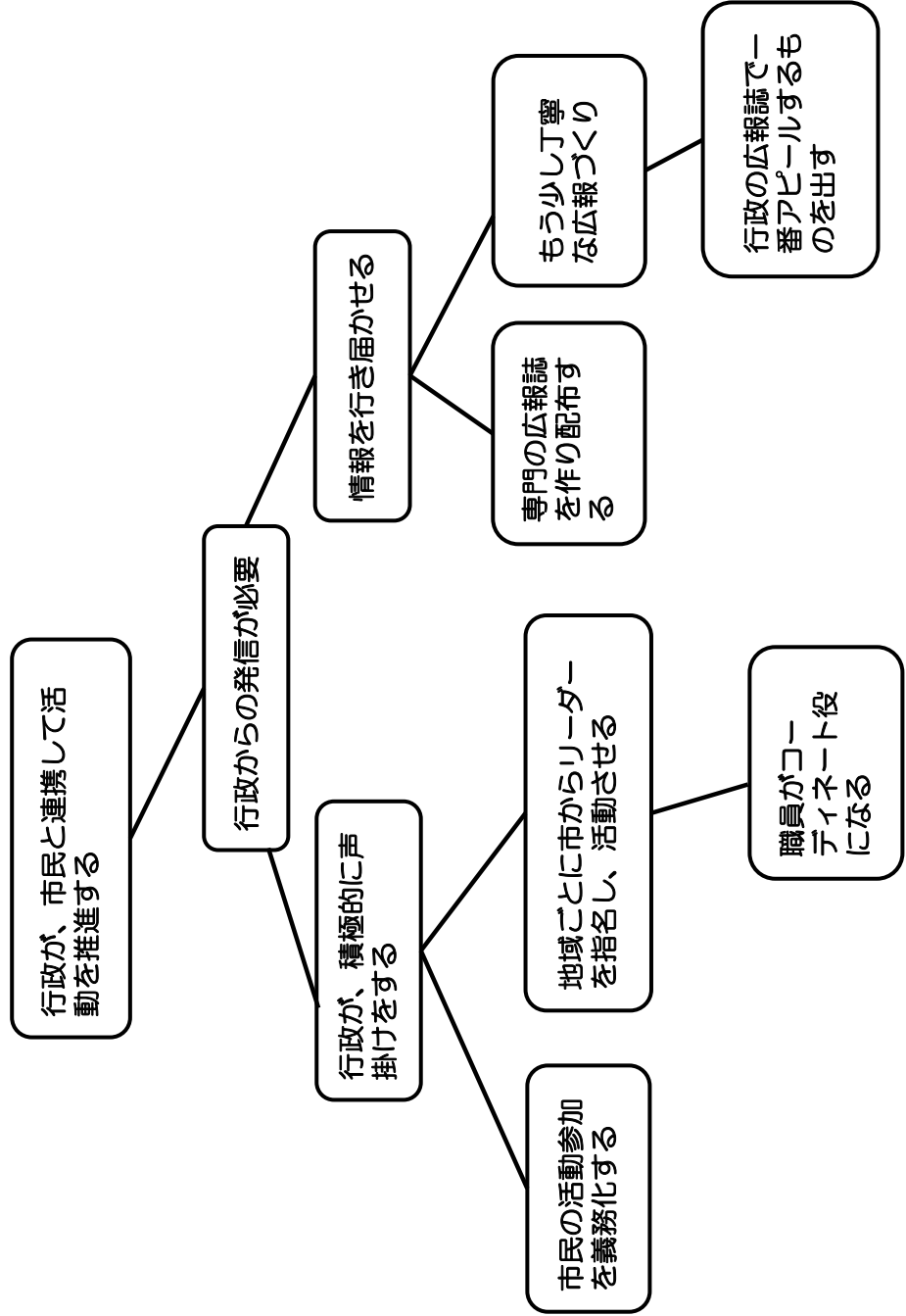
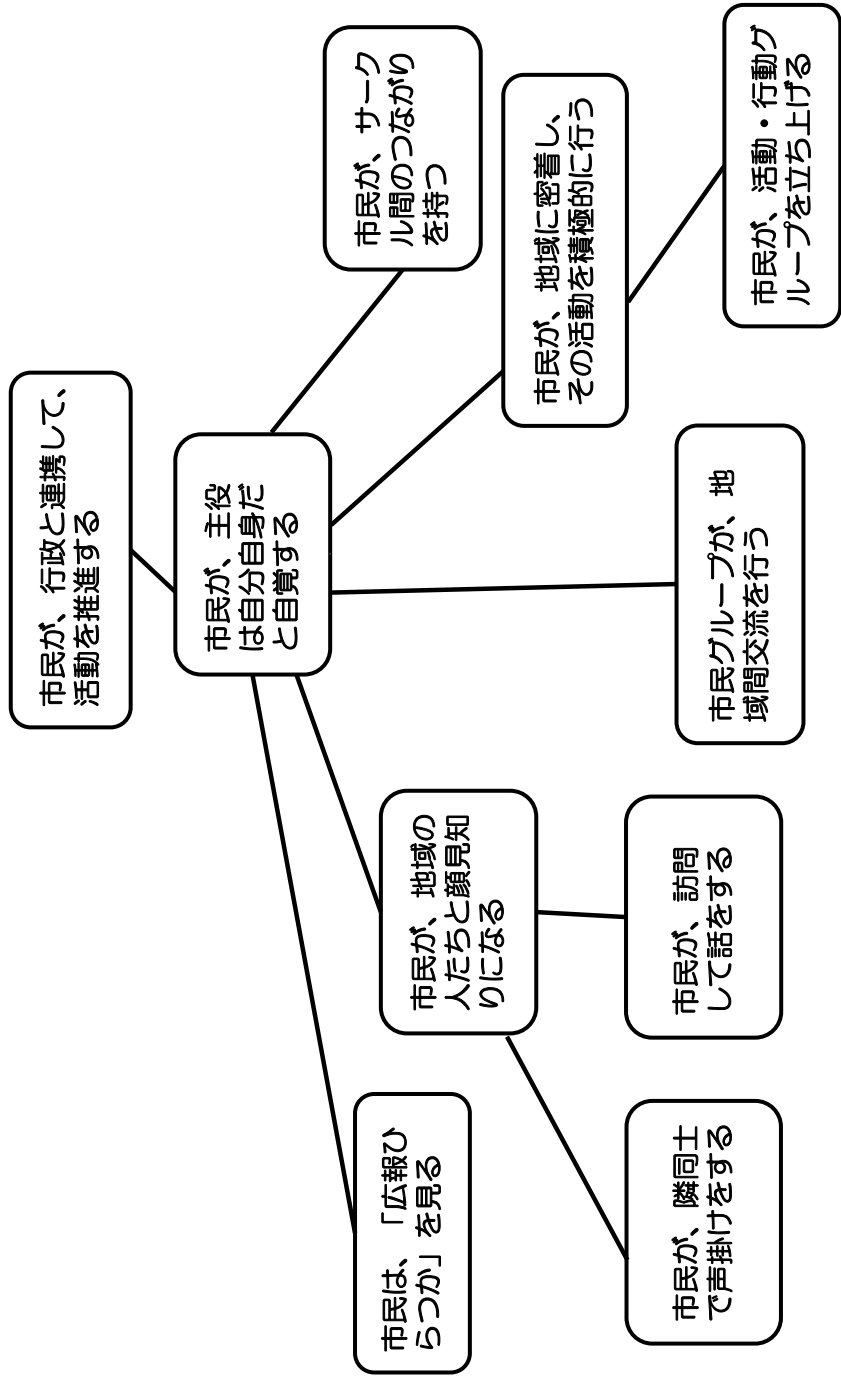
グループワークの様子



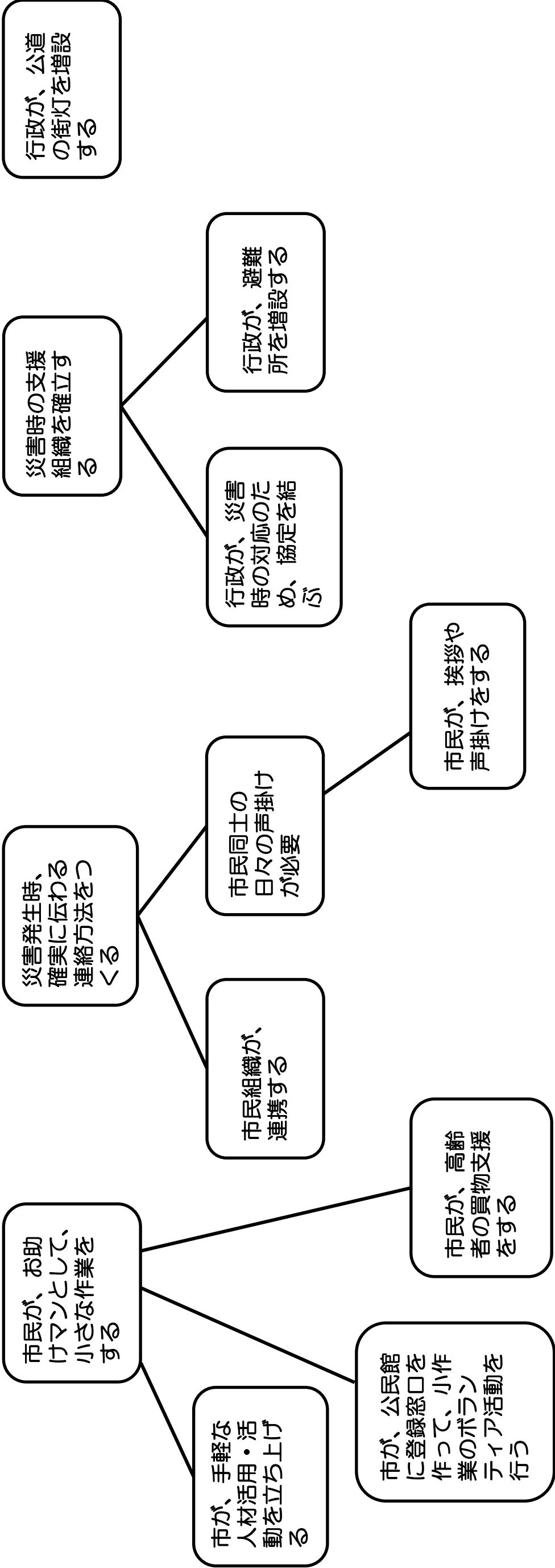
グループワークの様子

市民一人ひとりが地域を支える活動に参加する意識を高めるために

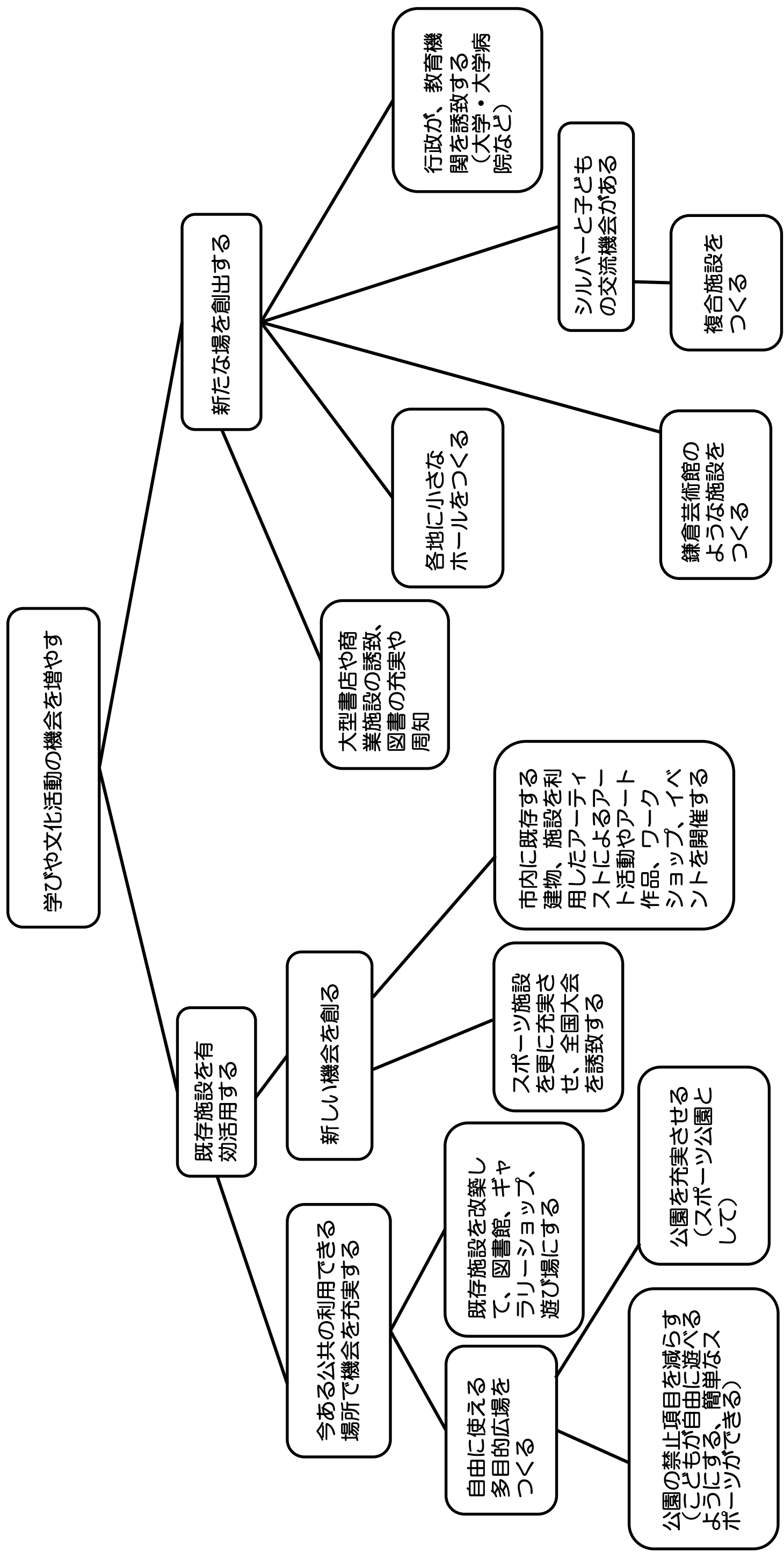
上下をつなぐ線は「上を実現するために」「その具体的な例は」という言葉と同義



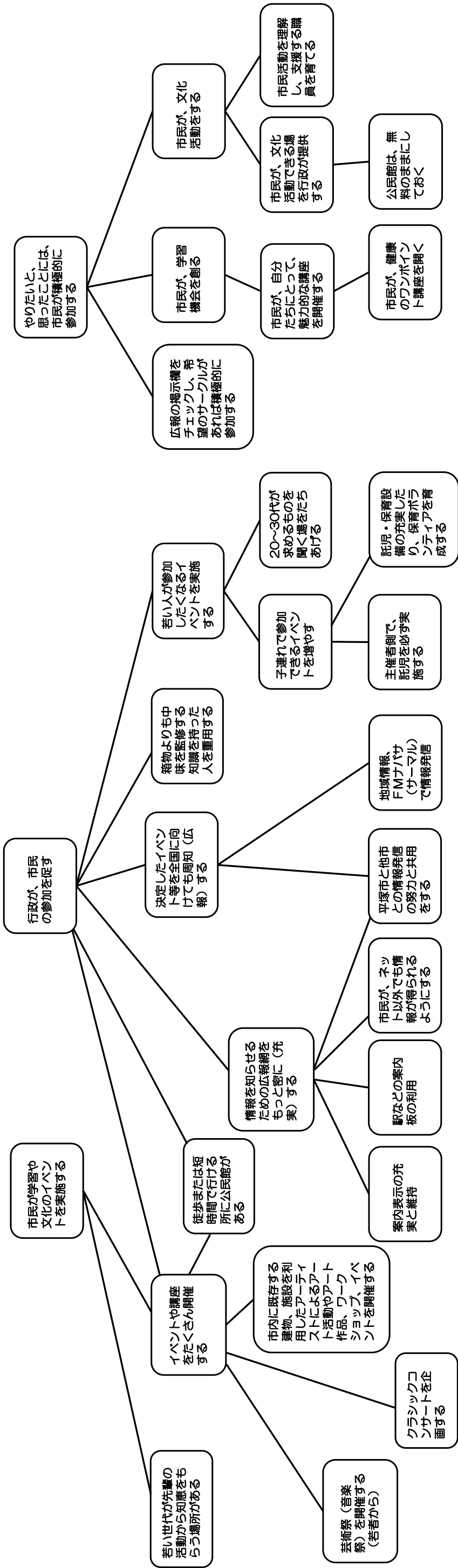
高齢者が安心して過ごせるような 地域のつながりをつくる



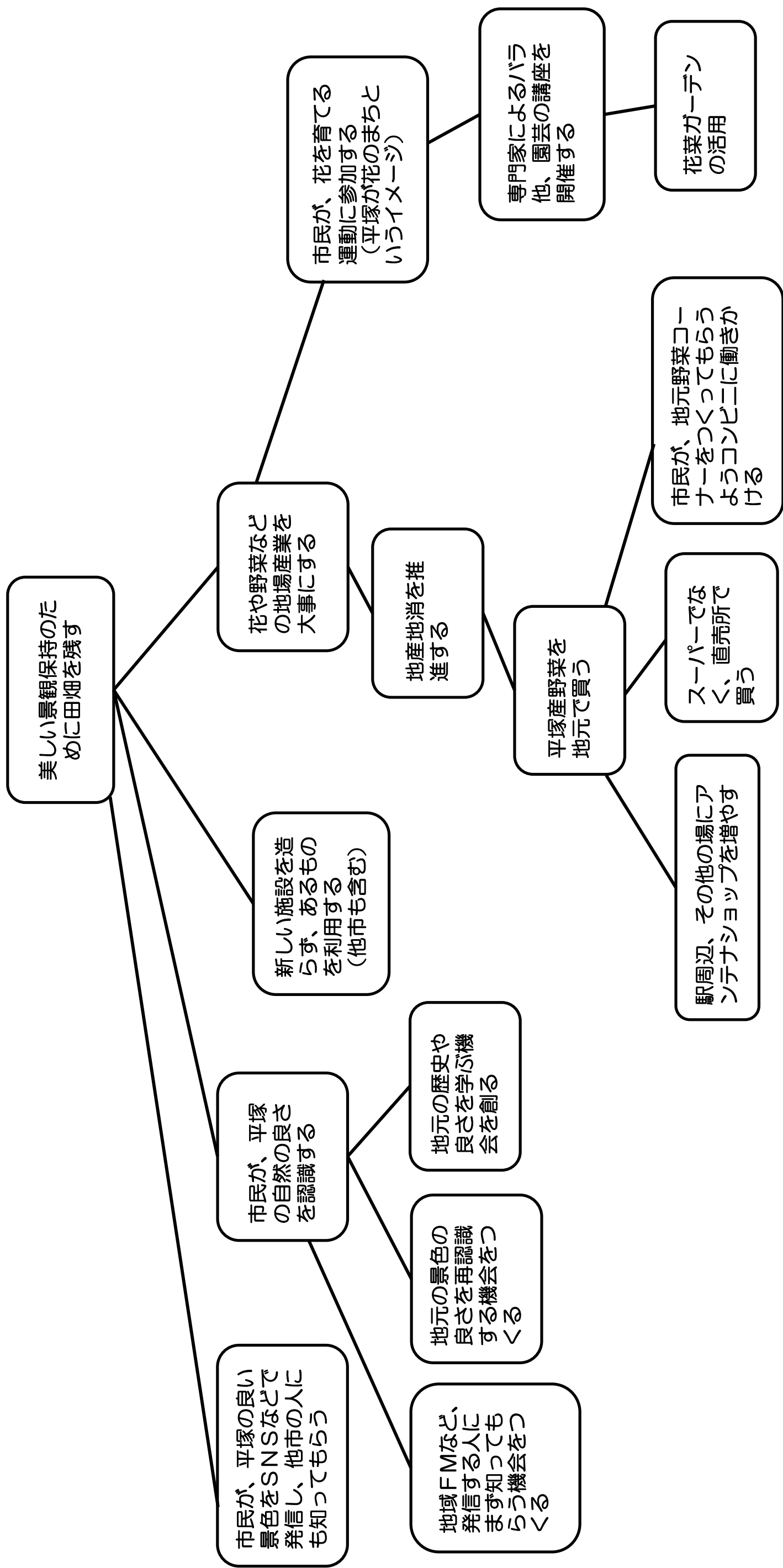
様々な対象に向けた生涯学習の機会や文化活動の機会を充実する



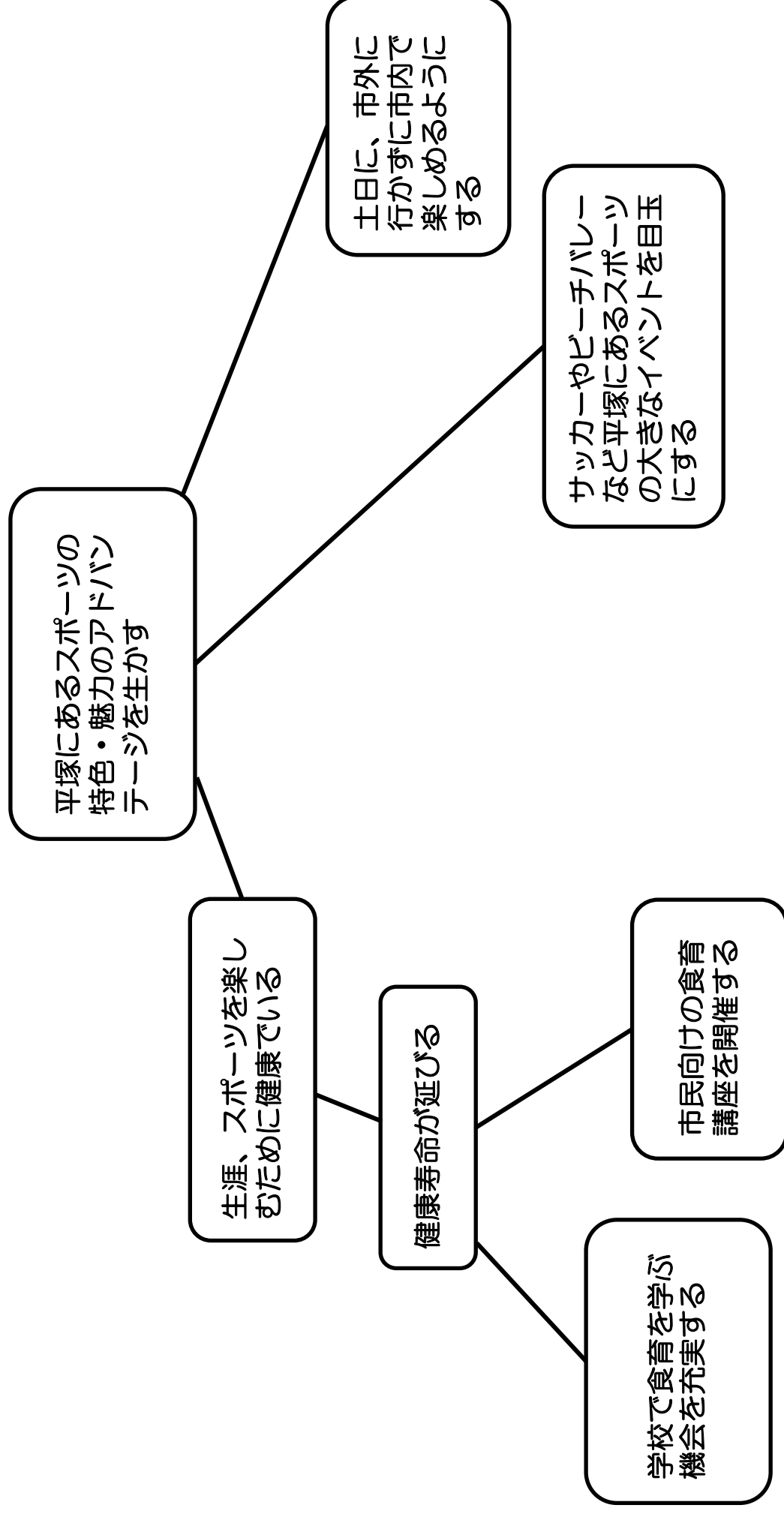
様々な対象に向けた生涯学習の 機会や文化活動の機会を充実する



豊かな自然環境、景観を守り、自然
と文化のつながりを学ぶ機会の充実



生涯にわたる学習・スポーツ・レクリエーションを楽しむ環境の充実



(4) 第4回市民ワークショップ

【実施概要】

■開催日時、場所

日時：平成27年2月21日（土） 13時～16時

場所：平塚市役所本館303、304会議室

■参加者

11名（男性4名、女性7名）

■当日プログラム

1. ワークショップ

作業1：前回のふり返りと本日の流れの説明

作業2：これまでのワークショップについて、ふり返ってみよう

- ・第2回、第3回市民ワークショップにおけるグループワーク等の結果や参加者からの意見をまとめた「子や孫へつないでいきたい平塚市の未来像」について、各自で表記や考え方の確認、整理を実施。
- ・次に、各自で整理内容したものをグループ内で発表後、意見交換を行い、グループとしての表記等の整理を実施。

作業3：参加者全員で考えよう

- ・各グループで整理した内容について発表後、参加者全員で意見交換を行い、全体として意見を整理し、まとめる。

2. 閉会

あいさつ：中村企画政策課長

■実施結果

①これまでのワークショップについて、ふり返ってみよう

- ・「子や孫へつないでいきたい平塚市の未来像」について、各グループにおける意見交換の際の参加者の意見及びとりまとめ結果は、別紙7のとおり。

②参加者全員で考えよう

- ・各グループのとりまとめ結果を発表後、さらに参加者全員で意見交換し、まとめた。全体のとりまとめ結果は、別紙8、9のとおり。

■当日の様子



当日の流れの説明



前回までのふり返し

平成 27 年 2 月 21 日（土）
市民ワークショップ

6 項目で各自文言内容を確認した後の各項目における 1 班メンバーの意見

【1 美しい景観や田園風景が守られている】

- ・行政が行っていることなど、情報の見える化が必要である
- ・情報発信の方法が重要である
- ・写真やホームページなどを市で紹介できれば良いのではないか
- ・色々な場所で相談できるところがあれば良い
- ・色々な人が参加できる場所があると良い
- ・平塚産の産物をもっと P R することにより、市外から人を引き込むことができる
- ・あさつゆ広場が遠い（市の西側に偏っている）
- ・市内各所での地場産の売り場が増えると良い
 - 売り場について、もっと P R をする
- ・平塚には、地場産業も良いものがある
- ・ラスカにも、平塚野菜や魚の売り場があると良い
- ・駅前に観光案内がないため、駅（改札口付近）に観光案内所があると良い
- ・「市民が」⇒『市民や市外の人』に修正する
- ・『上記の情報発信が行われている』を追加する
 - ⇒ 個別の施策に記載するのか
 - 全体として、7 つ目の柱として位置づけるか

【2 文化を守り、文化を育て、文化を創る風土がある】

- ・七夕の意味合いを伝えていきたい
- ・人がいなければ、文化は育たない
- ・文化などについても世界（外国人も意識して）への情報発信が必要
- ・情報を発信していくことで、七夕まつりなども継続し、経済も続いていくと思う
- ・「道の駅」があれば良いと思う
- ・「七福神めぐり」について、秦野は売店等に置いてあるパンフレットが、スタンプラリーとなっており、全てを回り終わると記念品（ペンダント）がもらえる
- ・平塚にも「七福神」はあるが、市民が知らないのが残念
 - ⇒ 情報発信が必要である
- ・情報の発信にあたっては、特典も活用し、親切に分かりやすく行う
- ・情報発信には、自治会も活用する
- ・平塚の文化について、市民だけでなく多くの方が知っていることが大事であるから、二番目の記載事項の「多くの市民」を『多くの人』に修正する
- ・平塚の文化を P R するには、「市民」と「行政」が連携することが必要なので、三番目の記載事項の冒頭に『市民と行政が連携して』を冒頭に追加する
- ・情報発信は国外も必要であるから、「市内外」の前に『世界を意識して』を追加する

【3 若い世代がたくさん住んでいる】

- ・子育てについては、制度の情報共有が必要である
- ・仲間の中でも確執があるようだ
- ・子育ての経験者が、相談に乗ったり、アドバイスしてあげることが必要であり、また交流も大事である
- ・子どもは、家族だけではなく、地域みんなの宝物で大切である
- ・子育てについては、ひとりで悩んでいる人が多くなっている
- ・悩んでいる人は、引きこもりがちになるので、そのような方を誘い出すことが重要である
- ・子育て世帯を支え合うしくみが必要である
- ・子育て世帯の意見では、通学や放課後の安全面を考えると、小中学校が自宅の近くにあると安心して働きに行くことができる（小、中学校が離れている地域がある）
- ・子育て世代を支えるのは、「学習」だけではないことから、三番目の記載事項の中の『の学習』を削除する
- ・六番目として、『安心して働くことのできる環境が整備されている』を追加する

【4 市民が健康で「する、見る、楽しむスポーツの文化」が根付いている】

- ・自宅の近くでは、スポーツをする姿は見ることができない
- ・三番目に記載されている「食育…」については、『⑤の学習活動』に移動した方が良いのではないか
- ・文化は、既存のものの維持で、積極的な対応が必要である
- ・タイトルの「文化」を削除した方が良い
- ・二番目の記載事項の「催し」を『祭り』にした方が良い
- ・「食育…」の記載事項については、⑤へ移動する
- ・タイトルの「スポーツの文化」を『スポーツ』にする
- ・三番目の記載事項の「…活かした催し…」を『…活かした祭り…』に修正する

【5 学習活動が盛んで多くの市民が参加している】

- ・「食」に関する学習も大事なので、④から「食育…」の記載事項について移動させる
- ・「口腔ケア」も大事である
- ・これからは、「食歴」が重要である
- ・「健康年齢」も大事である
- ・一番目の記載事項の「学習機会」を『学習や交流機会』に修正する
- ・④から移動してくる記載事項の文末に、『健康寿命が維持されている』を追加する

【6 子どもや高齢者、障がいのある人等を支え合う市民活動が行われている】

- ・「支え合う」というのは、「若い人が高齢者を」、「健常者が障がい者を」という、一方的なものではなく、逆のこともあるので、タイトルに『相互に』を追記する
- ・子育てなど、高齢者（経験者）の知識や知恵が、若い人に受け継がれていくことも大事である

- ・タイトルについて、「支え合う」の前に『と相互に』を追記する
- ・四番目の記載事項に『高齢者の知識や知恵が若い人に受け継がれている』を追加する

【7 知りたい全ての情報が発信されている】

- ・タイトルを『知りたい全ての情報が発信されている』とする
- ・活発な情報発信のしくみが構築され、維持されている
- ・駅前で、観光案内がされている
- ・ホームページが分かりやすくなっている

このページは白紙です

1 班のとりまとめ結果

1. 美しい景観や田園風景が守られている

- ▶ 農漁業など地場産業を盛んにするために、地元の産物を市民や**市外の人**も買っている。
- ▶ 景観を損なうような行為をしない、させない。
- ▶ 花を植える活動、里山保全の活動などが盛ん。
- ▶ 景観や環境を保全することと利便性のバランスがとれている。
- ▶ **上記の情報発信が行われている。(⇒7へ移動)**

2. 文化を守り、文化を育て、 文化を創る風土がある

- ▶ 市民と行政が芸術文化の活動や機会を支え合って育てている。
- ▶ セタまつり、歴史的な遺産など平塚ならではの文化の価値を多くの**人**が知っている。
- ▶ **市民と行政が連携して**平塚の文化の良さを**世界を意識して**市内外に対して様々な手段で発信している。
- ▶ 既存の施設やスペースを有効に利用し、文化や芸術活動が盛んにおこなわれている

3. 若い世代がたくさん住んでいる

- ▶ 子育てについて学ぶ機会や、異年齢の交流が盛ん
- ▶ 若い世代が地域活動や政策決定の場に参画できるしくみがある。
- ▶ 文化や情報に日常的に触れる機会が多くある
- ▶ 一時保育など、子育て世代の**学習**を支えるしくみがある
- ▶ 安全で安心なまちであると、市内外に認識されている。
- ▶ **安心して働くことのできる環境が整備されている。**

4. 市民が健康で「する、見る、楽しむ スポーツの文化」が根付いている

- ▶ 市内のあちこちでスポーツをする姿が見られる。
- ▶ サッカー、ビーチバレーといった「平塚にあるスポーツの特色・魅力」を活かした**祭り催しイベント**がある。
- ▶ 食育など健康に関する学びの機会や活動の機会が学校や地域にたくさん**あり、健康寿命が維持されている。(⇒5に移動)**

5. 学習活動が盛んで多くの市民が参加している

- ▶ 市民と行政がそれぞれの持ち味を生かして学習**や交流**機会をつくっている。
- ▶ 公民館や市民文化会館、学校の余裕教室など、身近な場所での学習機会がたくさんある。
- ▶ やりたいと思ったことには市民が積極的に参加している。
- ▶ 食育など健康に関する学びの機会や活動の機会が学校や地域にたくさん**あり、健康寿命が維持されている。(4から移動)**

6. 子どもや高齢者、障がいのある人等と相互に 支え合う市民活動が行われている

- ▶ 市民の小さなグループが公民館単位にいくつもあり、グループ間のネットワークがある。
- ▶ 市民が挨拶や、声の掛け合いをしている。
- ▶ 多様な組織間、地区間での活動の交流や連携がうまくいっている。
- ▶ **高齢者の知識や知恵が若い人に受け継がれている。**

7. 知りたい全ての情報が発信されている

- ▶ 活発な情報発信のしくみが構築され、維持されている
- ▶ 駅前で観光案内がされている
- ▶ ホームページが分かりやすくなっている

6 項目で各自文言内容を確認した後の各項目における 2 班メンバーの意見

【1 美しい景観や田園風景が守られている】

- ・平塚の景観は、「山」ではなくて「海」だと思うので、海を活用した方が良い
- ・駅から海に続く道はとても良い
- ・地引網や田植え体験など参加したいがしているのか？ もし、しているのなら広報が不足しているのではないか
- ・地場産の農産物を市民に買ってもらえる仕組みが必要
- ・地産地消が大事
- ・市外から買い物に来るようにすることは良いが、そのためには特徴のあるものが必要
- ・子供たちに安全なものを食べさせたい
- ・食育に地場産農作物を取り入れていくことが必要
- ・休耕地や遊休地を活用する仕組みが必要
 - ⇒ 『休耕地や遊休地を市民が活用している』を追加する
- ・地元農産物を学校給食に取り入れると良い
 - ⇒ 『地元の産物を学校給食に取り入れるしくみができている』を追加する

【2 文化を守り、文化を育て、文化を創る風土がある】

- ・七夕まつりに簡単に参加できる仕組みが足りないのではないか
- ・七夕をかざる場所を「企業、商店、市民」で分割してはどうか
- ・七夕まつり以外のお祭りが少ない
- ・平塚ルネッサンスなど、やめてしまったお祭りもある
- ・仙台の七夕は、駅周辺だけでまち全体に広がりが無い
- ・平塚市では地域ごとに飾り付けを行っていて良いと思う
- ・「本当に何をして欲しいのか」を能動的に把握しながら案内をする、コンシェルジュのような情報発信が必要
- ・相手の状況を踏まえた情報の受発信部門が必要
- ・平塚の火薬廠のような、近代歴史的な遺産を活用した平和教育をする必要があるのではないか
- ・子どもに、平和意識を持ってもらうための活動をしたいと考えているが、小学校でそのような取組みは行っていないのか
 - ⇒ 二番目の記載事項で、「…歴史的な遺産など…」を『…歴史的な遺産などを教育で活用しながら…』に修正する
 - 二番目の記載事項の文末を「…市民が知っている」を『…市民が共有し、市外に発信できている』に修正する
- ・『市民が参加できる仕組みがあるイベントの開催』を追加する

【3 若い世代がたくさん住んでいる】

- ・若い世代の定住については、年代が離れていてわからない
- ・特に話題なし

【4 市民が健康で「する、見る、楽しむスポーツの文化」が根付いている】

- ・スポーツ施設の駐車場が不足している
- ・ビーチバレーなど海岸へ行くための交通機関、駐車場が不足している
- ・かなちゃん手形があり、移動時に助かっている

【5 学習活動が盛んで多くの市民が参加している】

- ・公民館でのイベントについて、うまく宣伝がされていない

【6 子どもや高齢者、障がいのある人等を支え合う市民活動が行われている】

- ・新しい住民と古くからの住民との意識が異なり、老人会などに参加しにくい
- ・老人会も開放的な運営が必要
- ・公民館は、市内に充実していて良い

【7 広報、広聴】

- ・各部門にコンシェルジュが配置されている

2班のとりまとめ結果

1. 美しい景観や田園風景が守られている

- ▶ 農漁業など地場産業を盛んにするために、地元の産物を市民が買っている。
- ▶ 景観を損なうような行為をしない、させない。
- ▶ 花を植える活動、里山保全の活動などが盛ん。
- ▶ 景観や環境を保全することと利便性のバランスがとれている。
- ▶ **休耕地や遊休地を市民が活用している。**
- ▶ **地元の産物を学校給食に取り入れるしくみができている。**

2. 文化を守り、文化を育て、 文化を創る風土がある

- ▶ 市民と行政が芸術文化の活動や機会を支え合って育てている。
- ▶ 七夕まつり、歴史的な遺産など平塚ならではの文化の価値を多くの市民が知っている。
- ▶ 平塚の文化の良さを市内外に対して様々な手段で発信している。
- ▶ 既存の施設やスペースを有効に利用し、文化や芸術活動が盛んにおこなわれている
- ▶ **地域の祭りを全市に知らせる手段がある。**

3. 若い世代がたくさん住んでいる

- ▶ 子育てについて学ぶ機会や、異年齢の交流が盛ん
- ▶ 若い世代が地域活動や政策決定の場に参画できるしくみがある。
- ▶ 文化や情報に日常的に触れる機会が多くある
- ▶ 一時保育など、子育て世代の学習を支えるしくみがある
- ▶ 安全で安心なまちであると、市内外に認識されている。
- ▶ **参加のしやすい情報提供ができている。**
- ▶ **子育て広場や支援センターに高齢者のボランティアがいる。**

4. 市民が健康で「する、見る、楽しむ スポーツの文化」が根付いている

- ▶ 市内のあちこちでスポーツをする姿が見られる。
- ▶ サッカー、ビーチバレーといった「平塚にあるスポーツの特色・魅力」を活かした催しがある。
- ▶ 食育など健康に関する学びの機会や活動の機会が学校や地域にたくさんある。

5. 学習活動が盛んで多くの市民が参加している

- ▶ 市民と行政がそれぞれの持ち味を生かして学習機会をつくっている。
- ▶ 公民館や市民文化会館、学校の余裕教室など、身近な場所での学習機会がたくさんある。
- ▶ やりたいと思ったことには市民が**積極的に参加しているやすい場づくり**ができている。
- ▶ **どの公民館でどのような行事を行っているか学習機会が一括して広報**できている。

6. 子どもや高齢者、障がいのある人等を 支え合う市民活動が行われている

- ▶ 市民の小さなグループが公民館単位にいくつもあり、グループ間のネットワークがある。
- ▶ 市民が**笑顔で**挨拶や、声の掛け合いをしている。
- ▶ 多様な組織間、地区間での活動の交流や連携がうまくいっている。
- ▶ **笑顔での声掛けがある。**

7. 広報・広聴

- ▶ 各部門にコンシェルジュが配置されている

6 項目で各自文言内容を確認した後の各項目における 3 班メンバーの意見

【1 美しい景観や田園風景が守られている】

- ・農漁業について、買える店がたくさんあり、手に入りやすいことが重要である
- ・地場産業を扱うお店が宣伝されると良い
- ・そこにあるとわかる状態なら買っているのではないかな。わかりやすい状態が良い
- ・平塚の中に野菜、魚などまとめたものがあれば買いに来てもらえるのではないかな
- ・平塚のものをもっとアピールした方が良いのではないかな
- ・平塚の名物、商品を市内外の人が知っていることが大事
 - 一番目の記載事項の「市民が」⇒『市民や市外の人』に修正する
- ・「みんなが知っている」というフレーズを入れられたらよいのではないかな

【2 文化を守り、文化を育て、文化を創る風土がある】

- ・七夕の竹飾りも昔に比べて減っている
- ・景気の影響もあるが、七夕の活性化をできないかな
- ・みんながもっと意識を持って関わるようになれば、認知度が高くなるのではないかな
 - 意識を変えていいイメージが膨らむようになると良い
- ・平塚市全体で七夕まつりを盛り上げていくことが必要である
- ・歴史的な遺産は、多くの市民が知っているのか。紹介する機会があるのか
- ・（公民館の）講座だけでなく、もっと知っていただければいいと思う
- ・八幡宮のいわれがわからない
- ・駅にパンフレットを置くなど、興味を引くようになっていけば良い。
- ・（歴史的遺産など）発信者がそのことを知っているのか
- ・発信者が価値を知っているのか
- ・紹介文にしても堅苦しい感じがする
 - みんなが興味を引くようにすることが大事
- ・『地域のまつりを全市に知らせる手段がある』を追加する

【3 若い世代がたくさん住んでいる】

- ・「異年齢の交流が盛ん」の例として、盛んになる仕組みがあるのか
- ・昔は、年長者が若い人にいろいろ話していたが、そのようなことが今はない
- ・なくなったものを作る機会が必要で、そのきっかけ作りがあれば良い
- ・若い世代のお母さん方が集まる場所に、年配の人が来てくれると良い
- ・つどいの広場などで、同世代といえども他の人に声を掛けるのが苦手な人がいるので間を取り持ってくれる人がいると良い
- ・子育て支援センターに、高齢者が参加する仕組みがあると良い
 - 『子育て広場や支援センターに高齢者のボランティアがいる』を追加する

- ・生涯学習、高齢者学級への参加は、敷居が高く参加にためらう
- ・敷居が低いということをどれだけアピールできるかが重要である
- ・イベントが、どこでどう行っているか分かるものがあると良い
- ・「いつ、どこで行っており、どのバスに乗れば良い」など、イメージできるものを積極的に出してみてもどうか
- ・イベントで、「何をやるのか」、「どんな人が来るのか」など、内容が細かく紹介してあると入りやすくなる
- ・子育て広場に高齢の方、ボランティアの方がいると良い
- ・『参加しやすい情報提供ができています』を追加する

【4 市民が健康で「する、見る、楽しむスポーツの文化」が根付いている】

- ・馬入の体育館の駐車場が混んでいる
- ・駐車場は整っているが、使いやすいかどうか
- ・ビーチバレーを行う場合、海岸のどこに車を停めれば良いのか分からない
- ・市を挙げて「ベルマーレ」をもっと PR してはどうか
- ・サポーターをたくさん呼べば、にぎやかになるのではないかな

【5 学習活動が盛んで多くの市民が参加している】

- ・どこの公民館で、どうしているのかが分からない
- ・市内各公民館での催しが、一度に閲覧できるものがあれば PR できるのではないかな
- ・広報紙のトップページにイベント情報を掲載すると良い
 - 『どの公民館でどのような行事を行っているか、学習機会が一括して広報できている』を追加する
- ・まつりの日がわからない
- ・文化の掘り起しとして、市内の神社の神輿を1つに集めて行ってはどうか
- ・(2の項目として) 地域のまつり、自分の地域外のものがわかると良い
- ・三番目の記載事項について、「…市民が積極的に参加している」を『…市民が参加しやすい場づくりができています』に修正する

【6 子どもや高齢者、障がいのある人等を支え合う市民活動が行われている】

- ・『笑顔での声掛けがある』を追加する

【7 広報・広聴】

- ・平塚市のサイトで各地区の公民館、地域情報のサイトにリンクが張ってあり見られるといい
- ・勤め人は、平日に市役所へ行くことができない
- ・「ここに行くと、平塚市内の情報が集まる。」というものがあると良い
- ・若い人のアイデアが出せる場があると良い
- ・市役所に聞くにも敷居が高いと感じる
- ・敷居を低くして、市役所に何でも聞いて構わないということがわかると良い

3班のとりまとめ結果

1. 美しい景観や田園風景が守られている

- ▶ 農漁業など地場産業を盛んにするために、地元の産物を市民や**市外の人**が買っている。
- ▶ 景観を損なうような行為をしない、させない。
- ▶ 花を植える活動、里山保全の活動などが盛ん。
- ▶ 景観や環境を保全することと利便性のバランスがとれている。

2. 文化を守り、文化を育て、 文化を創る風土がある

- ▶ 市民と行政が芸術文化の活動や機会を支え合って育てている。
- ▶ セタまつり、歴史的な遺産などを**教育で活用しながら**、平塚ならではの文化の価値を多くの市民が**共有し、市外に発信できている。知っている。**
- ▶ 平塚の文化の良さを市内外に対して様々な手段で発信している。
- ▶ 既存の施設やスペースを有効に利用し、文化や芸術活動が盛んにおこなわれている
- ▶ **市民が参加できる仕組みがあるイベントの開催。**

3. 若い世代がたくさん住んでいる

- ▶ 子育てについて学ぶ機会や、異年齢の交流が盛ん
- ▶ 若い世代が地域活動や政策決定の場に参画できるしくみがある。
- ▶ 文化や情報に日常的に触れる機会が多くある
- ▶ 一時保育など、子育て世代の学習を支えるしくみがある
- ▶ 安全で安心なまちであると、市内外に認識されている。

4. 市民が健康で「する、見る、楽しむ スポーツの文化」が根付いている

- ▶ 市内のあちこちでスポーツをする姿が見られる。
- ▶ サッカー、ビーチバレーといった「平塚にあるスポーツの特色・魅力」を活かした催しがある。
- ▶ 食育など健康に関する学びの機会や活動の機会が学校や地域にたくさんある。

5. 学習活動が盛んで多くの市民が参加している

- ▶ 市民と行政がそれぞれの持ち味を生かして学習機会をつくっている。
- ▶ 公民館や市民文化会館、学校の余裕教室など、身近な場所での学習機会がたくさんある。
- ▶ やりたいと思ったことには市民が積極的に参加している。

6. 子どもや高齢者、障がいのある人等を 支え合う市民活動が行われている

- ▶ 市民の小さなグループが公民館単位にいくつもあり、グループ間のネットワークがある。
- ▶ 市民が挨拶や、声の掛け合いをしている。
- ▶ 多様な組織間、地区間での活動の交流や連携がうまくいっている。

7. 広報・広聴

知りたい全ての情報が発信されている

- ▶ 平塚市のサイトで各地区公民館、地域情報のサイトにリンクが張ってありみられると良い
- ▶ 「ここに行くと、平塚市内の情報が集まる」というものがあると良い
- ▶ 若い人のアイデアが出せる場があると良い
- ▶ 市役所に聞くにも敷居が高いと感じる。敷居を低くして、「市役所に何でも聞いて構わない」ということが分かると良い

全体のとりまとめ結果

まとめ

1. 美しい景観や田園風景が守られている

- ▶ 農漁業など地場産業を盛んにするために、地元の産物を市民や市外の人も買っている。
- ▶ 景観を損なうような行為をしない、させない。
- ▶ 花を植える活動、里山保全の活動などが盛ん。
- ▶ 景観や環境を保全することと利便性のバランスがとれている。
- ▶ 休耕地や遊休地を市民が活用している。
- ▶ 地元の産物を学校給食に取り入れるしくみができている。

まとめ

2. 文化を守り、文化を育て、文化を創る風土がある

- ▶ 市民と行政が芸術文化の活動や機会を支え合って育てている。
- ▶ 七夕まつり、歴史的な遺産などを教育で活用しながら、平塚ならではの文化の価値を多くの市民が共有し、市外に発信できている。
- ▶ 市民と行政が連携して平塚の文化の良さを世界を意識して市内外に対して様々な手段で発信している。
- ▶ 既存の施設やスペースを有効に利用し、文化や芸術活動が盛んにおこなわれている。
- ▶ 市民が参加できるしくみがあるイベントの開催。
- ▶ 地域の祭りを全市に知らせる手段がある。

まとめ

3. 若い世代がたくさん住んでいる

- ▶ 子育てについて学ぶ機会や、異年齢の交流が盛ん。
- ▶ 若い世代が地域活動や政策決定の場に参画できるしくみがある。
- ▶ 文化や情報に日常的に触れる機会が多くある
- ▶ 一時保育など、子育て世代を支えるしくみがある。
- ▶ 安全で安心なまちであると、市内外に認識されている。
- ▶ 安心して働くことのできる環境が整備されている。
- ▶ 参加のしやすい情報提供ができている。
- ▶ 子育て広場や支援センターに高齢者のボランティアがいる。

まとめ

4. 市民が健康で「する、見る、楽しむスポーツ文化」が根付いている

- ▶ 市内のあちこちでスポーツをする姿が見られる。
- ▶ サッカー、ビーチバレーといった「平塚にあるスポーツの特色・魅力」を活かしたイベントがある。

まとめ

5. 学習活動が盛んで多くの市民が参加している

- ▶ 市民と行政がそれぞれの持ち味を生かして学習や交流機会をつくっている。
- ▶ 公民館や市民文化会館、学校の余裕教室など、身近な場所での学習機会がたくさんある。
- ▶ やりたいと思ったことには市民が参加しやすい場づくりができている。
- ▶ 食育など健康に関する学びの機会や活動の機会が学校や地域にたくさんあり、健康寿命が維持されている。
- ▶ 学習機会が一括して広報できている。

まとめ

6. 子どもや高齢者、障がいのある人等と相互に支え合う市民活動が行われている

- ▶ 市民の小さなグループが公民館単位にいくつもあり、グループ間のネットワークがある。
- ▶ 市民が笑顔で挨拶や、声の掛け合いをしている。
- ▶ 多様な組織間、地区間での活動の交流や連携がうまくいっている。
- ▶ 高齢者の知識や知恵が、若い人に受け継がれている。

7. 広報・広聴

知りたい全ての情報が発信されている

- ▶ コンシェルジュのような機能をもった情報発信・受信部門がある。
- ▶ ホームページがわかりやすい。
- ▶ 若い人のアイデアを取り入れられるしくみがある。
- ▶ 様々な媒体で情報発信がされている。
- ▶ 活発な情報発信のしくみが構築され、維持されている。
- ▶ 駅前で観光案内がされている。

1. 美しい景観や田園風景が守られている

- ・農漁業など地場産物を盛んにするために、地元の産物を市民や市外の人にも買っている。
- ・景観を損なうような行為をしない、させない。
- ・花を植える活動、里山保全の活動などが盛ん。
- ・景観や環境を保全することと利便性のバランスがとれている。
- ・休耕地や遊休地を市民が活用している。
- ・地元の産物を学校給食に取り入れるしくみができている。

3. 若い世代がたくさん住んでいる

- ・子育てについて学ぶ機会や、異年齢の交流が盛ん。
- ・若い世代が地域活動や政策決定の場に参画できるしくみがある。
- ・文化や情報に日常的に触れる機会が多くある。
- ・一時保育など、子育て世代を支えるしくみがある。
- ・安全で安心なまちであると、市内外に認識されている。
- ・安心して働くことのできる環境が整備されている。
- ・参加のしやすい情報提供ができている。
- ・子育て広場や支援センターに高齢者のボランティアがいる。

5. 学習活動が盛んで多くの市民が参加している

- ・市民と行政がそれぞれの持ち味を生かして学習や交流機会をつくっている。
- ・公民館や市民文化会館、学校の余裕教室など、身近な場所での学習機会がたくさんある。
- ・やりたいと思ったことには市民が参加しやすい場づくりができている。
- ・食育など健康に関する学びの機会や活動の機会が学校や地域にたくさんあり、健康寿命が維持されている。
- ・学習機会が一括して広報できている。

「私の好きなひらつか」を
子や孫に
つなごう！

2. 文化を守り、文化を育て、文化を創る風土がある

- ・市民と行政が芸術文化の活動や機会を支え合って育てている。
- ・七夕まつり、歴史的な遺産などを教育で活用しながら、平塚ならではの文化の価値を多くの市民が共有し、市外に発信できている。
- ・市民と行政が連携して平塚の文化の良さを世界を意識して市内外に対して様々な手段で発信している。
- ・既存の施設やスペースを有効に利用し、文化や芸術活動が盛んにおこなわれている。
- ・市民が参加できるしくみがあるイベントの開催。
- ・地域の祭りを全市に知らせる手段がある。

4. 市民が健康で「する、見る、楽しむスポーツ文化」が根付いている

- ・市内のあちこちでスポーツをする姿が見られる。
- ・サッカー、ビーチバレーといった「平塚にあるスポーツの特色・魅力」を活かしたイベントがある。

6. 子どもや高齢者、障がいのある人等と相互に支え合う市民活動が行われている

- ・市民の小さなグループが公民館単位にいくつもあり、グループ間のネットワークがある。
- ・市民が笑顔で挨拶や、声の掛け合いをしている。
- ・多様な組織間、地区間での活動の交流や連携がうまくいっている。
- ・高齢者の知識や知恵が、若い人に受け継がれている。

7. 広報・広聴

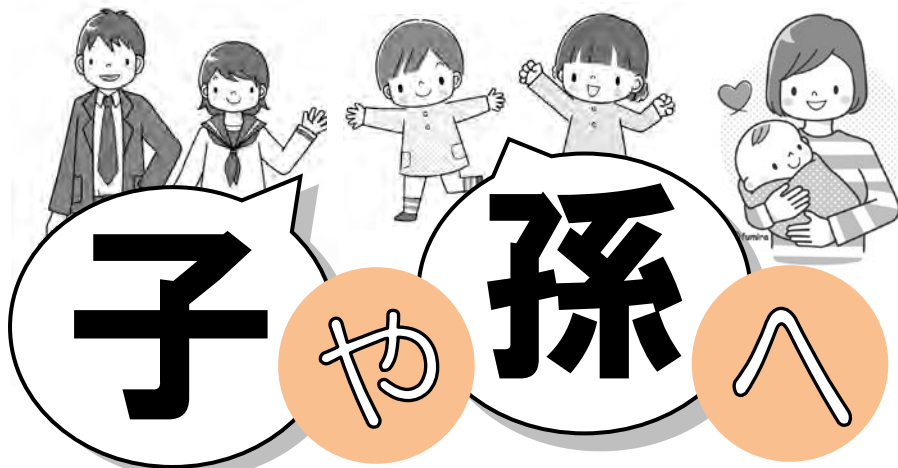
知りたい全ての情報が発信されている

- ・コンシェルジュのような機能を持った情報発信・受信部門がある。
- ・ホームページが分かりやすい。
- ・若い人のアイデアを取り入れられるしくみがある。
- ・様々な媒体で情報発信がされている。
- ・活発な情報発信のしくみが構築され、維持されている。
- ・駅前で観光案内がされている。

このページは白紙です

参 考 資 料

このページは白紙です



平塚市総合計画
市民ワークショップ

参加者募集

私の好きな ひらつかをつなぐ

全国的な傾向と同様、平塚市でも、高齢者が増えるとともに、子どもたちが減ってきています。将来、このまちの主役となる子どもたちが希望を持ち、さらには、誰もがその人らしく暮らせるように、今、私たちが大切に思うものを将来へつないでいく必要があります。

拡大や成長を前提としたまちづくりから、人と人とのつながりや心の豊かさを大切にしたいまちづくりへ、これまでとは違った価値観が求められています。

そこで、多様な経験や考えを持った方々と楽しみながら、知恵を出し合い、子や孫へ残していきたい、つないでいきたい「ひらつか」について話し合ってみませんか。

なお、この市民ワークショップの結果については、次期総合計画策定へ生かしていきます。

あなたが好きな
ひらつかとは？

新たな
価値観の気づき

子や孫への
たすきリレー

日時／平成 **27** 年 **1** 月 **17** 日(土)、**24** 日(土)
午後半日×4回 **2** 月 **7** 日(土)、**21** 日(土)

※1月17日のみ 13時から 15時まで。その他の日は、13時から 16時まで。

(受付は、各日 12時30分から)

場所／**平塚市役所本館** 募集人数／**40名以内**

※応募できる方は、平成26年10月に実施した
「平塚市市民意識調査」に、ご協力をお願いした市民の方。
(この案内を送られた方で、調査への回答の有無は問いません)
できれば、4日間参加可能な方。

主催／**平塚市**

申込方法等の詳細は裏面をご覧ください



【総合計画とは】

総合計画とは、市町村における「まちづくりの最も基本となる計画」です。

本市が持つ豊かな自然環境、歴史や産業などの地域資源を生かしながら、今後想定される課題や財政状況などを踏まえながら、平塚市をどのようなまちにしていきたいのか、また、そのためには、だれが、どのように取り組むのかを取りまとめたものです。

スケジュール及び進め方

ワークショップは、第1回から第4回までを通して行います。

回	日 時	実施内容
第1回	平成27年1月17日（土）13:00～15:00	基調講演・情報提供
第2回	平成27年1月24日（土）13:00～16:00	グループワーク
第3回	平成27年2月 7日（土）13:00～16:00	グループワーク
第4回	平成27年2月21日（土）13:00～16:00	グループワーク・まとめ



事前に希望した分野（別紙の参加応募用紙にある分野を選択していただきます）について、あらかじめ決められた話し合いのルールに沿って、各グループ（1グループ6名程度）で、子や孫へつないでいきたい「ひらつか」について、意見やアイデアをお互いに出し合ってください。

なお、ワークショップの当日の運営については、経験豊富な方にお願いして実施します。

申込方法

参加を希望される方は、同封の応募用紙に必要事項を記入の上、返信用封筒にて企画政策課まで申し込みをしてください（締切：平成26年12月10日（水）当日消印有効）。

なお、ファックス及び電子メールでは、受付いたしません。

応募結果

応募の結果につきましては、ご応募いただいた全ての方に対して、平成26年12月24日（水）を目途に文書にてお知らせします。

なお、応募者が募集人数を超えた場合は、性別、年齢、居住地、参加可能日数等のバランスを考慮して、決定させていただきます。

その他

- （1）参加者に対する報酬及び交通費はありません。
- （2）とりまとめ結果については、後日ホームページで公開します。

その他ご不明点等がございましたら、下記の連絡先まで気軽にお尋ねください。



＜お問合せ先＞

〒254-8686 平塚市浅間町9番1号

平塚市企画政策部企画政策課計画推進担当

電話：0463-23-1111 内線 2326、2162